品質管理基準及び規格値

1	セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・	
	覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)	3
2	ガス圧接	12
3	既製杭工	15
4	基礎工	17
5	場所打工	18
6	既製杭工(中堀り杭エコンクリート打設方式)	18
7	下層路盤	18
8	上層路盤	21
9	アスファルト安定処理路盤	24
10	セメント安定処理路盤	24
11	アスファルト舗装	26
12	転圧コンクリート	33
13	グースアスファルト舗装	38
14	路床安定処理工	40
15	表層安定処理工(表層混合処理)	42
16	固 結 工	44
17	アンカーエ	45
18	補強土壁工	45
19	吹付工	48
20	現場吹付法枠工	53
21	水路工	59
22	水路工(管水路)	60
23	特殊吹付工	61
24	ロープ伏工	61
25	河川土工·治山土工	62
26	道路土工	64
27	路上再生路盤工	68
28	工場製作工(鋼橋用鋼材)	70
29	ガス切断工	70
30	溶接工	71
31	公園植栽 客土	77
32	公園植栽 高木	77
33	公園植栽 中低木	77
34	公園植栽 特殊樹木	77
35	公園植栽 地被類	77
36	公園植栽 木材	77
37	生育基盤盛土工	78
38	鉄筋挿入工(ロックボルト工)	79
39	中層混合処理	80
40	押え盛土工	81

品質管理基準及び規格値

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0				
产			JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び溶的) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材- 第1部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材- 第2部: フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材- 第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材- 第4部: 電気炉でをレスラグ骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材- 第4部: 電気炉でをレスラグ骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材- 第5部: 石炭ガス化スラグ骨材)					
計 縣 基 準	骨材試験を行う場合は、工事開 始前、工事中1回/6ヶ月以上及 び産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事 開始前、工事中1回/月以上及 び産地が変わった場合。				
規格値	3つの対策の中のいずれか1つについて 確認をとる。	設計図書による	純乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.6%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニ ッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規 格値については摘要を参照)	砕石 40%以下 砂利 35%以下 舗装コンクリートは35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの 場合は25%以下				
試驗方法	レディーミクストコン クリート取扱基準による。	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	JIS A 5005				
試 縣 項目	アルカリシリカ反応抑制対策	骨材のふるい分け試験	骨材の密度及び吸水率部の	粗骨材のすりへり試験				
熊 公	必 無							
種 別	拉 菜							
工 種	セ セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)							

試験成績 表等による ^{強33}	nursi.	0	0	0	0			
蓋		濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。			寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。			
	工事制始前、工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週 以上)	工事開始前、工事中1回/年以 上及び産地が変わった場合。	試料となる砂の上部における溶液の色より濃い場合。	工事開始前、工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ 月以上 及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以 上及び産地が変わった場合。			
規格値	粗骨材:砕石 3.0%以下 (ただし、 粒形判 定実績率が38%以上の場合は5.0%以下 スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材:砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり 作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材:0%以下 (ただし、すりへり 作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり すりへり作用を受ける場合は5.0%以下)	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度比が300%以上の場合は使用できる。	压縮強度の30%以上	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	治骨材:10%以下 粗骨材:12%以下			
試験方法	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1122 JIS A 5005			
素 項 田	骨材の微粒分量試験	砂の有機不納物試験	モルタルの圧縮強度による砂 の試験	骨材中の粘土塊量の試験	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験			
瀬 区 黎 今	そ の 他 (JIS マーク表示された)	ディミクスト	・コンクリー・	卜冬使用	する場合は除く)			
種 別	茶 菜							
工種	1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)							

試験成績 表等による ^{独初}	C)		0		0)				0						C)	
蕭									上水道を使用している場合は試験に換	え、上水道を使用していることを示す資	料による確認を行う。					その原水は、上水道水及び上水道水以外	の水の規定に適合するものとする。			
試 駿 基 準	工事開始前、工事中1回/月以 上		工事開始前、工事中1回/月以 L	4		工事開始前、工事中1回/月以上	工事開始前、工事中1回/月以上		工事開始前及び工事中1回/年	以上及び水質が変わった場合。						工事開始前及び工事中1回/年	以上及び水質が変わった場合。	スラッジ水の濃度(11回/日		
規格値	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) ITS R 5212(シリカセメント)	R	R	JIS K 5212 (シリカセメント) JIS R 5212 (シリカセメント)	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	\aleph		JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5214 (エコセメント)	懸獨物質の量:2g/0以下	溶解性蒸発残留物の量:1g/0以下	塩化物イオン量:200ppm以下	セメントの嶽紺幇間の差:始発は30分以	内、終結1560分以内	モルタルの圧縮強度比:材備分及び28日で	90%以上	塩化物イオン量:200ppm以下	セメントの衛袖時間の差:始発は30分以内、	終結160分以内	モルタルの圧縮強度比:材齢7及び8日で	90%以上
試験方法	JIS R 5201		JIS R 5202			JIS R 5203	JIS R 5204		上水道水及び上水道	水以外の水の場合:	JIS A 5308	附属書C				回収水の場合:	JIS A 5308	附属書C		
試験項目	セメントの物理試験		セメントの化学分析			2人としか 不可能	セメントの蛍光線分析方法		練混ぜ水の水質試験											
就 区 樂 分	W 6	その他(JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)																		
種 別	拉 菜																			
工種	ー 4メン	1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)																		

試験成績 表等による 確認	0	0 0	0	0		
蓋	レディミクストコンクリートの場合、印字記録こより確認を行う。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量 か50㎡未満の場合は、1工種2回以上。 またはレディーミクストコンクリート 工場(JISマーク表示認証工場)の品質 証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工 種とする。(橋台、橋姆、杭類 (場所打 杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床 版、高欄等)、維壁工(高さ1m以上)、 函渠工、樋門、種管、水門、水路(内幅 2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネ ル、舗装、その他これらに類する工種及 び特記仕様書で指定された工種) 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場 合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。※①	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する		
財	工事#41回/6ヶ月以上	工事職が前及び工事中1回/年以上 以上 以上	2回/日以上	1回/月以上		
規格値	ホ:±1%以内 セメント:±1%以内 骨材:±3%以内 混析材:±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤:±3%以内	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート中のモルタル量の偏差率: 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材料の偏差率: 5%以下 コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質量 差: 0.8%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質量 だ: 0.8%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質量 差: 0.8%以下 コンクリート中のモルタル単位名積質量 差: 0.8%以下 コンクリート中のモルタル単位名積質量 差: 0.8%以下 コンクリート中のモルタル単位名積質量 差: 0.8%以下 コンクリート中のドルタル単位名積質量 を記します。 2.5%以下 2.5%以下 2.5%以下 2.5%以下	設計図書による	設計図書による		
試驗方法		バッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 土木学会基準 JSCE - I 502	JIS A 1111	JIS A 1125		
計	計量消度	ミキサの瀬昆む性能試験	細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験		
試 区 験 分		そ の 他 (JIS マーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く)				
種 別	製造(プラント)					
工 種	ロ カメント・コンクリート(標用コンクリート・コンクリートダイ・第十コンクリート・吹付けコンクリートを深く))					

試験成績 表等による 確認		
薩	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上。また、レディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認証工場)の品質明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の影験を行う。 ・骨材に確砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化がイオン含有率試験方法。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化が等を有さない無筋構造物の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。	示方配合の単位水量の上限値よ、粗骨 材の最大寸法が20mm~25mmの場合は 175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³を基本 とする。
計 票 基 准	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。 (1回の測定回数は3試料のとする) 試験の判定は3試料の測定値の平均値とする。	100m ³ /日以上の場合; 2回/日 (午前1回、午後1回)以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100m ³ ~150m ³ ごとに1回、及び補卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。
規格値	原則0.3kg/m沙人下	1) 測定した単位水量が、配合設計士 15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工 してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計士 15kg/m³を超え土20kg/m³の範囲にある場 合は、水量変動の原因を調査し、生コン製 造者に改善を指示し、その運搬車の生コン は打設する。その後、配合設計土15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1 回、単位水量の測定を行う。なお、「15kg/m3 以内で安定するまで」とは、2回連続して 15kg/m3以内の値を観測けることをいう。 3)配合設計土20kg/m³の指示値を越える場 合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、 水量変動の原因を調査し、生コン製造業者
試驗方法	レディーミクストコン クリート取扱基準によ る。	レディーミクストコ ンクリート単位水量 測定要領(案)による
財際国	塩化粉終量規制	単位水量測定 (次頁に続く)
試 区分	対 版	
種 尼	選 H	
工 種	ュ セメント・コンクリート (転圧コンクリート・コンクリー	トダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)

試験成績 表等による 確認						
摘要	・ - 小規模工種※で1工種当りの総使用量	7.7%以上重次に1工程当り2~%以出量が50 m*未満の場合は、1工種1回以上。またはレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認証工場)の品質 記明書等のみとすることができる。 1工種当たりの総使用量が50m*以上の場合は、50m*ごとに1回の計験を行う。 続、井筒基礎等)、橋架上部工(桁、床版、井筒基礎等)、橋架上部工(桁、床版、井筒基礎等)、橋架上部工(桁、床版、青欄等)、橋壁工(高さ1m以上)、 図渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)				
試 颗 基 準	・一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	・何中 により 1回/ 日以上、構造物の重要度 と工事の規模に応じて20m ³ ~150 m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品 質変化が認められた時。ただし、 道路橋鉄筋コンクリート床版に レディーミクストコンクリート を用いる場合は、原則として全 運搬車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車 計験を行うが、スランプ討験の 結果が安定し良好な場合はその 後スランプ討験の頻度について 監督員と協議し低減することが できる。				
規格値	に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計士20kg/m³以内でなることを確認する。更に、配合設計士15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。。その後の配合設計士15kg/m3以内になるまで全運搬車の測定を行う。なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合は1回に限り再試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	スランプ8cm以上18cm以下:許容差十2.5cm スランプ2.5cm:許容値十1.0cm				
試験方法	TIS A 1101	1011 A CIL				
試験項目	単位水量測定スランプ影響	XARA-LI V				
試 区	☆ 					
種別	有 日					
日 種	セ セメント・コンクリート (転圧コンクリート・コンクリートダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)					

試験成績表等による	o data	
摘要	小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は、1工種1回以上。またはレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認証工場)の品質 記明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋與、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、糠壁工(高さ1m以上)、函環工、桶門、種管、水門、水路(内幅 20m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネ	ル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)
試 繁 基 準	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度 と工事の規模に応じて20㎡~ 150㎡ごとに1回 なお、テストピースは打設場所 で探取し、1回につき6個(07 …3個、03…3個)とする。 ・早強セメントを使用する場合 には、必要に応じて1回につき3 個(03)を追加で採取する。 ※打設量が小規模の場合は別紙 「日当たり打設量が小規模となるレディージがトックルとの場合は別紙	- 荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度 と工事の規模に応じて20㎡~ 150㎡ごとに1回、及び荷卸し時 に品質変化が認められた時。 打設日1日につき2回(午前・ 午後)の割りで行う。なおテス トピースは打設場所で採取し、 1回につき原則として3個とす る。 品質に異常が認められた場合に 行う。 品質に異常が認められた場合に 行う。
規格値	1個の測定結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3個の試験結果の平均値は、指定した呼び強度比以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	1.5% (幹容差) 1.個の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3.個の測定結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 設計図書による。 設計図書による。
試驗方法	JIS A 1108	JIS A 1116 JIS A 1128 JIS A 1128 JIS A 1106 JIS A 1107 JIS A 1112
計 繁 項 目	コンクリートの圧縮強度試験	空気量測定 コンクリートの曲げ強度試験 (コンクリート舗装の場合、 必須) コアによる強度試験 コアによる強度試験
以 黎 公	刘 巡	か 6 有
種 尼	摇 儿	
工種	ュ ヤメント・コンクシート (春用コンクシート・コンクシー	トダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)

試験成績 表等による 確認						
五	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート権 壁(ただし、プレキャスト製品は除く。)、 内空断面積が25m以上の鉄筋コンクリ ートカルバート類 橋梁上・下部工 (た だし、いずれの工種についてもプレキャ スト製品及びプレストレストコンクリ ートは対象としない)及び高さが3m以 上の堰・水門・樋門を対象とし構造物躯 体の地盤や他の構造物との接触面を除 く全表面とする。 フーチング・底版等で完成時ご地中、水 中にある部位については竣工前に調査 する。 ひび背い発生状況の調査」を実施 する。		コア採收位置、供試体の抜き取り寸法等 の決定に際しては、設置された鉄筋を破 損させないよう十分な検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所定の強度 を得られない場合、もしくは1ヶ所の強 度が設計強度の86%を下回った場合は、 監督員と協議するものとする。			
計 縣 駐 準	本数 総延長 最大ひび割ひ幅等		所定の強度を得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。			
規格値	0. 2mm	1回の測定結果(※)(3測点の平均値)は(呼び強度)以上とする。 設計基準領度	設計基準角度			
試驗方法	スケールによる測定	レディーミクストコ ンクリート取扱基準 による。	JIS A 1107			
試 縣 項 目	予問が割り	テストハシマーによる強度推定調査	コアによる強度試験			
就 区 縣 仑	☆ 無		その街			
種別	括上後試験					
工 種	ロ セメント・コンクリート (転圧コンクリート・コンクリートダム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く)					

日当たり打設量が小規模となるレディーミクストコンクリートの品質管理基準

日当たり打設量が小規模となるレディーミクストコンクリートを使用する場合の品質管理基準については下記基準による。

1. 品質管理基準

備考			
小規模 (日打設量 5 0m3 未満)	오국기 :2태소	子 凷	平
静岡県基準	品質管理基準による	品質管理基準による	品質管理基準による
JIS A5308による検査	150m3 に 1 回(3 ケ) 通常 028 のみ	心動に応じ	必要に応じ
試験項目	圧縮強度試験	スランプ試験	空気量試験

2. 試験回数の決め方 (圧縮強度試験)

配合種類別に

(1) 打設量が 50m3 程度で最低 1 回以上の試験を行うものとする。

ただし、日打設量が 50m3 以上の大規模のものは、現行基準で管理すること。

(2) 日当たり打設量が 50m3 未満の小規模の場合は、生コン工場の同一現場への出荷順に 50m3 程度でくくって(打設日が違ってもかまわない)1 回の試験を行うものとする。

(3) 打設量が少量でも2週間かかっても 50m3 に満たない場合は、2週間で1回の試験を行うものとする。

(4) 総打設量が 10m3 未満の場合は、試験を省略することができるものとする。

例 ある生コン工場で現場に出荷する場合の試験回数について

111111111111111111111111111111111111111	370	120
/23		30
/22	15	15
/21	6	10
/20	3	
/19	8	
/18	(4)	
/17	15	
/16	10	
/15	[m]	
/14	10	10
/13	20	
/12	15	
/11		
/10	ro	
6/	10	
8/	10	15
17	40	
9/	050	15
/2	10	15
4/		
4/3	35	15
出荷月日 配合	24 - 12 - 25BB	18 - 8 - 40BB

注)1回の試験単位を 「 」で示す。

試験成績 表等による 確認	
離	・モデル供試体の作成は、実際の作業と同一条件・同一材料で行う。直径19mm未満の鉄筋について手動ガス圧接、熱間押抜ガス圧接を行う場合、監督職員と協議の上、施工前試験を省略を名略することができる。 (1) SD490以外の鉄筋を圧接する場合・手動ガス圧接を行う場合、材料、施工条件などを特に確認する必要がある場合には、施工前試験を行う場合、材料を使用する場合、過酷な気象条件・高所などの作業環境下での施工条件、圧接技量資格者の熟練度などの確認が必要な場合などである。 ・自動ガス圧接を行う場合には、装置が正常で、かつ装置の設定条件に誤りのないに、大力な指のがならない。 (2) 直径19mm以上の鉄筋またはSD490の鉄筋を圧接する場合 手動ガス圧接、自動ガス圧接、熱間押抜けのすければならない。 (3) 直径19mm以上の鉄筋またはSD490の鉄筋を圧接する場合 手動ガス圧接、自動ガス圧接、熱間押抜きのいずれにおいても、施工前試験を行わなければならない。
計 縣 基 準	鉄筋メーカー、圧接作業班、鉄 筋径毎に自動ガス圧接の場合は 各2本、手動ガス圧接の場合は をガス圧接の場合は各3本のモ デル供試体を作成し実施する。
規格値	熱間押抜方法以外の場合 (陸が異なる場合は細い方の場合の場合の場合の場合の場合の場合を必要なる場合は細い方の鉄筋の1.4倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいるくらみの長さが鉄筋径(径が異なる場合は、細い方の鉄筋の01.1倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がいただし、両方又はいずれか一方の鉄筋がの1.4年だし、両方又はいずれか一方の鉄筋がの1.4年がで、一方とよりの角度がでいずれが鉄筋をの1.75以下。の場合は、細い方の鉄筋がの1.75以下。の手が下がり、へこみ、焼き割れが著しくない。 ③そのものも音と認められる欠陥があってはならない。 ②をへらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。 ②をの他有害と認められる欠陥があってはならない。 ②を、らみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。 ②を、ちみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。 ②を、ちみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。 ②を、ちみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。
試験方法	 目視 たれ下がり 焼き割れ、 ・ノギス等による計測 (詳細外観検査) 事心の偏心 ふくらみ ふくらみ おくらみ は接部のずれ 折れ曲がり 等
計 縣 項 目	外観検査
試 区 験 分	→ 無
種 記	超工
工種	27 ガス圧接

試験成績 表等による 確認	
摘	熱間神抜法以外の場合 ・規格値を外れた場合は以下による。 いずれの場合も監督員の承諾を得るも のとし、処置後は外観検査及び超音波 探傷検査を行う。 ・①は、圧接部を切り取って再圧接する。 ・②3は、再加熱し、圧力を加えて所 定のふくらみに修正する。 ・④は、圧接部を切り取って再圧接する。 ・⑤は、再加熱して修正する。 ・⑤は、再が熱して修正する。 ・⑤は、再が熱して修正する。 ・⑥では、圧接部を切り取って再圧接する。 ・⑥では、圧接部を切り取って再圧接する。 ・⑥では、再が熱して修正する。 ・⑥では、再が熱して修正する。 ・びずかの場合も監督員の承諾を得る。 ・びずかの場合も監督員の承諾を得る。 ・びずかの場合も監督員の承諾を得る。 ・びずれの場合も監督員の承諾を得る。 ・びまれた場合は以下による。 いずれの場合も監督員の承諾を得る。 ・①②③は、再が熱、再加圧、押抜きを行って修正し、修正後外観検査を行う。 ・④は、再加熱して修正し、修正後外観検査を行う。
計 縣 基 準	 目視は全数実施する。 特に必要と認められたものに対してのみ詳細外観検査を行う。
規格値	熱間神抜方法以外の場合 ①軸心の偏心が鉄筋径(径が異なる場合は 細、方の鉄筋)の1/5以下 ②ふくらみが鉄筋径(径が異なる場合は油 い方の鉄筋)の1.4倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋が50490の場合は1.5倍以上、両方又はいずれか一方の鉄筋が50490の場合は2、一両方又はいずれか一方の鉄筋が50490の場合は、細、方の鉄筋の1.1倍以上。ただし、両方又はいずれか一方の鉄筋が50490の場合は鉄筋径の1.2倍以上。(径が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋)の1/5以下。(6が異なる場合は、細、方の鉄筋を1.1倍以上。まならない。
試驗方法	 目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ ・ノギス等による計 側 (詳細外観検査) 申心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 肝接部のずれ 折れ曲がり 等
就 縣 垣 目	外観検査
減図	→ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
種 尼	插上後背驟
工 種	2 ガス圧接

續の		
試験成績 表等による 確認		
華	規格値に外れた場合は、以下による。 ・不合格ロットの全数について超音波探傷検査を実施し、その結果不合格となった箇所は、監督員の承諾を得て、圧接部を切り取って再圧接し、外観検査及び超音波探傷検査を行う。	
誤 爨 基 準	超音波探傷検査は抜取検査を 原則とする。抜取検査の場合 は、各ロットの30ヶ所とし、1 ロットの大きさは200ヶ所程度 を標準とする。ただし、1作業 班が1日に施工した箇所を1ロットとする。	
規格 値	・各検査ロットごとに30ヶ所のランダムサンプリングを行い、超音波探傷検査を行った結果、不合格箇所数が1ヶ所以下の時はロットを不合格とし、2ヶ所以上のときはロットを不合格とする。ただし、合否判定レベルは基準レベルより-240感度を高めたレベルとする。	
試驗方法	JIS Z 3062	
計 縣 項 目	超音波探傷検査	
瀬 区 黎 今	⇒ ∅	
種 別	<u> </u>	
工 種	2ガス圧接	

試験成績 表等による 確認	0		
表 審 器 整			
蕭		 ・外径700m未満:上ぐいと下ぐいの外 周長の差で表し、その差を2m× エ以下 とする。 ・外径700m以上1,016m以下:上ぐい と下ぐいの外周長の差で表し、その差 を3m× π以下とする。 ・外径1,016mmを超え2,000m以下:上 ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差 を3m× π以下とする。 	
試 縣 基 準	設計図書による。		原則として全容接箇所で行う。 ただし、施工方法や施工順序等 から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。なお、全容接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1,2,34,5,6により定められた認定技術者が行うものとする。
規格 値	目視こより使用上有害な欠陥 (鋼管抗は変形など、コンクリート杭はひび割かや損傷など) がないこと。	【円周溶接部の目違い】 外径700mm未満: 許容値2m以下 外径700m以上1,016mm以下: 許容値3mm以 下 外径1,016mmを超え2,000mm以下: 許容値 4mm以下	割か及び有害な欠陥がないこと。
試驗方法	目視	JIS A 5525	JIS Z 2343- 1, 2, 3, 4, 5, 6
計	外観検査 (御管杭・コンクリート杭・日御杭)	外観検査(鋼管抗)	御管杭・コンクリート杭・H 郷坑の現場溶接 浸透採傷試験 (溶剤除去性染 色浸透採傷試験)
熊 分	必須	☆ 筬	
種別	女女	摇 H	
工 種	の 民製な	ZH	

試験成績 表等による 確認	Odda	
五大	中掘り杭工法等で、放射線透過試験が 不可能な場合は、放射線透過試験に替 えて超音波探傷試験とすることができ	ô
試 鰀 基 準	原則として溶接20ヶ所毎に1 ヶ所とするが、施工方法や施工 順序等から実施が困難な場合 は現場状況に応じた数量とす る。なお、対象箇所では鋼管抗 を4方向から透過し、その撮影 長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接 を20ヶ所施工した毎にその20 ヶ所から任意の1ヶ所を試験 することである。) 原則として溶接20ヶ所毎に1 ヶ所とするが、施工方法や施工 順序等から実施が困難な場合	(4.9.%がんだしがした数量と 9 る。なお、対象箇所では鋼管抗 を4方向から探傷し、その探傷 是は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接 を20ヶ所施工した毎にその20 ヶ所から任意の1ヶ所を試験 することである。)
規格値	JIS Z 3104の1類から3類であること JIS Z 3060の1類から3類であること	
試驗方法	JIS Z 3104 JIS Z 3060	
試 縣 項 目	鋼管杭・H鋼坑の現場溶接 越音波探傷試験	
旗 区	沙 一	<u> </u>
種別	掲 H	
日 種	3 既成杭工	

試験成績 表等による 確認			
播要		参考値:20N/mm²	中堀り杭工法(セメントミルク噴出 攪件方式)、プレボーリング杭工法及び 回庫抗工法(こおける支持層の確認は、支 持層付近で掘削速度を極力一定に保ち、 掘削抵抗値(オーガ駆動電流値または回 転抵抗値)の変化をあらかじめ調査して いる土質柱状図と対比して行う。この際 の施工記録に基づき、本施工における支 持層到達等の判定方法を定める。
試 縣 基 準	供試体の採取回数は一般に単 杭では30本に1回、継航では20 本に1回とし、採取本数は1回 につき3本とする。	供討体の採取回数(は一般)に単 杭では30本に1回、総杭では20 本に1回とし、採取本数は1回 につき3本とすることが多い。 なお、供試体はセメントミルク の供試体の作成方法に従って 作成した 45×10cmの円柱供試 体によって求めるものとする。	
規格 値	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は 60%~70%(中堀り杭工法)、60%(プレ ボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメン ト杭工法)とする。	設計図書による。	討場が立っ施工により定めた方法を満足していること。
試驗方法	比重の測定による水セメント比の推定	セメントミルク工法 に用いる根固め液及 びくい周固定液の圧 縮強度試験 JIS A 1108	1999年
計 霽 項 目	鋼管杭・コンクリート杭 (根固め)水セメント比	<i>鋼管抗・コンクリート抗</i> (根固め) セメントミルクの圧縮強度 試験	支持層の確認
瀬 区 黎 仑	その街		☆ 筬
種 尼	超 日		超
工種	3 既製杭工		4 基礎工

試験 成績 表等による 確認			0	0
華	孔底に沈積するスライムの量は、掘削完 了直後とコンクリート打込み前に検測 テープにより測定した孔底の深度を比 較して把握する。	泥分の沈降や杭先端からの土砂の流入 等によってスライムが溜ることがある ので、孔底処理からコンクリートの打設 までに時間が空く場合は、打設直前に孔 底スライムの状態を再確認し、必要にお いて再処理する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。る。・300㎡以下は省略できる。	 中規模工事:2,000㎡以上とする。 小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 300㎡以下は省略できる。
試 縣 基 準			・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前
規格 値	設計図書による。	設計図書による。	粒状溶盤:修正CBR20%以上(クラッシャラン鉄綱スラグは修正CBR30%以上)	JIS A 5001 表2参照
試驗方法	検測テープ	検測テープ	「網装調査・試験法 便覧」[4]-68	JIS A 1102
緊壓用	孔底沈殿物の管理	孔底処理	修正GR耐獭	骨材のふるい分け試験
器 公	必無	沙 無	必 無	
厘 詔	福日	福日	本	
工 種	ら場所杭工	ら既製杭工(中堀り杭工)	7 下層路盤	

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
権	 ・鉄綱スラグには適用しない。 ・中規模工事:2,000m3以上とする。 ・小規模工事:2,000m3未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 る。 ・300m3以下は省略できる。 	 ・CS:クラッシャラン鉄綱スラグに適用する。 ・中規模工事:2,000m³以上とする。 ・小規模工事:2,000m³未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 る。 ・300m³以下は省略できる。 	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・300㎡以下は省略できる。	 ・再生クラッシャラン/ご適用する。 ・中規模工事:2,000㎡とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 る。 ・300㎡以下は省略できる。
計 縣 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前
規格 値	塑生指数 PI:6以下	1. 5%以下	呈色なし	再生クラッシャーランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が40%以下とする。
試驗方法	JIS A 1205	「補装調査・試験法 (更覧」[4]-80	JIS A 5015	JIS A 1121
試 縣 項 目	土の液性限界・塑性限界試験	鉄綱スラグの水浸膨脹性試験	道路用スラグの呈色判定試験	粗骨材のすりへり試験
湖 区	☆ 紙			その 街
種 昭	本 菜			
工 種	て下層路盤			

試験成績 表等による 確認						
計勝 要 兼	・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	・荷重車については、施工時に用いた 転圧機械と同等以上の締固効果を持つ ローラやトラック等を用いるものとする。・300㎡以下は省略できる。	セメントコンクリートの路盤に適用 する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。
計	・2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合1,000㎡ につき 1個加算する。	・全幅、全区間で実施する。	1,000㎡につき2回の割合で 行う。	・中規模以上の工事:異常が認められたとき。	・中規模以上の工事:異常が認 められたとき。	・中規模以上の工事: 異常が認 められたとき。
規格値	車道、路肩等 園々の測定値 測定値の平均値 Nn 車道、路肩等 Nx=97%以上 水-c=96%以上 Nx-c=96%以上 水-c=96%以上 Nx-c=95%以上 水-c=96%以上 Nx-c=95%以上 (密度を落とし Nx-s=90%以上 た場合) Nx-c=89.5%以上 水-c=89%以上 Nx-c=89%以上				塑生物1:6以下	設計図書による。
試驗方法	「舗装調査・試験法 便覧」[4]-256 砂置換法(JIS A 1214) 砂置換法は、最大粒 径が53m以下の場合 のみ適用できる	「維装調査・試験法 便覧」[4]-288	JIS A 1215	JIS A 1102	JIS A 1205	JIS A 1203
計 縣 項 目	現場密度の測定	プルーフローリング	平板載荷試験	骨材のふるい分け試験	土の液性限界・塑性限界試験	含水比試験
諾 区	→ 無	<u>'</u>	N	の 名	1	
種 記	掲 H					
工 種	7下 團路 鐵					

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
充	 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 きる。 ・300㎡以下は省略できる。 	 MS: 松度調整鉄鋼スラグ及び HMS: 水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 中規模工事: 2,000㎡大満とする。 小規模工事: 2,000㎡未満とする。 材料の品質証明書によることができる。 る。 300㎡以下は省略できる。 	 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 きる。 ・300㎡以下は省略できる。 	 ただし、鉄綱スラグには適用しない。 中規模工事:2,000㎡以上とする。 小規模工事:2,000㎡未満とする。 材料の品質証明書によることができる。 300㎡以下は省略できる。
試 颗 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前
規格 値	修正CBR80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む 場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	修正CBR80%以上	JIS A 5001 表2参照	塑性指数 ·1:4以下
試驗方法	「維装調査・試験法 便覧」 [4]-68	「維装調査・試験法 便覧」[4]-68	JIS A 1102	JIS A 1205
計	修正GR計職	鉄鋼スラグの修正の路地験	骨材のふるい分け試験	土の液性限界・塑性限界試験
湖 区 縣 分	必 原			·
種 尼	林 菜			
工 種	⊗ 上層路盤			

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
型 彩 舞	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	P %	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	the K
凇	・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及び HMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡水満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。 ・300㎡以下は省略できる。 ・300㎡以下は省略できる。 ・300㎡以下は省略できる。 ・300㎡以下には	- MS: 松度調整鉄鋼スラグ及び HMS:水硬性粒質調整鉄鋼スラバで通用する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡米満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 きる。	・HMS:水硬性度調整鉄鋼ステル適用する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。	- MS: 本型実調整鉄鋼スラグ及び - MS: 水硬性披露離鉄鋼スラグに適用する。 - 中規模工事: 2,000m ³ 大満とする。 - 小規模工事: 2,000m ³ 大満とする。 - 材料の品質証明書によることができる。 - 300m ³ 以下は省略できる。
崋	- MS: * * * * * * * * * *	・MS:松度調整鉄綱スラ IMS:水硬性度調整鉄鋼スラガに ・中規模工事:2,000㎡状 ・小規模工事:2,000㎡未済 ・材料の品質証明書によ きる。 ・300㎡以下は省略できる。	HMS:A硬性拡度調整線A7分化。 ・中規模工事:2,000㎡以、 ・小規模工事:2,000㎡未済 ・ 材料の品質証明書によきる。 ・300㎡以下は省略できる。	- MS: * 地度調整鉄鋼スラグに - 世規模工事: 2,000㎡とい - 小規模工事: 2,000㎡未端 - が料の品質証明書によえ - あれいの品質証明書による。
		・MS: 松度調整鉄鋼スラグ及び HMS: 水硬性質調整鎖スラバで適用する。 ・中規模工事: 2,000m ³ 火満とする ・ 小規模工事: 2,000m ³ 米満とする ・ 材料の品質証明書によること きる。 ・300m ³ /下は省略できる。 ・300m ³ /下は省略できる。	・HMS:水硬性度調整鉄鋼スラバに適用方。 ・中規模工事:2,000㎡以上とす7。 ・小規模工事:2,000㎡未満とす7。 ・材料の品質証明書によることきる。 きる。	・MS:松度調整鉄鋼スラグ及び HMS:水硬性披震農鉄鋼スラバ道用する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする ・小規模工事:2,000㎡未満とする ・材料の品質証明書によること; る。
兼	施工前、施工前	施工前、加工前、加工前、加工前、加工前、加工前、加工前、加工前、加工的、加工的、加工的、加工的、加工的、加工的、加工的、加工的、加工的、加工的	施工前、施工前	施工前,
試 颗 基	・中規模以上の工事:施工前、	・中規模以上の工事:施工前、 才料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 才料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 オ料変更時 ・小規模以下の工事:施工前
搖	・中規模以イオー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・中規模以 材料変更時・小規模以	・中規模以 材料変更時・小規模以	・中規模以イ料を実施・小規模が、
興				
規格			(上 (14月)	11
	呈色なし	1. 5%以下	1. 2MpaL/L	1.50kg/0以上
7 法	5015的属書 調查・試験法 便覧」[4]-73	調査・試験法 便覧」[4]-80	調査・試験法	[2]-131
試験方法	JIS A 5015附属書 「舗装調査・試験法 便覧」[4]-73	「維装調査・討験法 (便覧」[4]-80	「舗装調査・試験法 便覧」[4]-75	[維基調查·討變法便 覧」[2]-131
		是在	餐	質量試
日 目	鉄鋼スラグの呈色判定試験	ずの水浸膨	での一軸圧済語は験	での単位容利
4-7 11112	鉄鍋スラク	鉄網スラグの水浸膨和長性試験	鉄橋 スラグの	鉄綱スラグの単位容積質量試験
熊 区	☆ 紙			
重 別	本			
工 瘻	∞ 上層路鐵			

試験成績 表等による 確認	0	0	
蕭	・地度調整及びセメントコンクリート再 生骨材を使用した再生粒度調整に適用 する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・300㎡以下は省略できる。	 ・中規模工事:2,000㎡大満とする。 ・小規模工事:2,000㎡大満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。 ・セメントコンクリートの路盤に適用する。
試 駿 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ につき1個加算する。 市場模以上の工事:定期的又は1400円。 は140時(1回~2回/日) 1,000㎡につき2回の割で行う 観察により異常が認められた時
規格値	50%以下	20以下	車道、路肩等 園々の測定値 測定値の平均値率n 車道、路肩等 東大範標密度 東京・695.5%以上 歩道 東大範標密度 東京・69.5%以上 水油 東大範標密度 東京・90.9%以上 た場合) 東大範標密度 東京・90.9%以上 2.36 mmふ・るい:土15%以内 東京・15%以内 75 μ mふ・るい:土6%以内 東沙井田本・14以下
試驗方法	JIS A 1121	JIS A 1122	(開装調査・試験法 (便覧」[4]~256 砂 置 換 法 (JIS A 1214) 砂置換法は、 最大粒径が53mm以下 の場合のみ適用できる 。 覧」[2]~16 覧」[2]~16 「舗装調査・試験法便 覧」[2]~16 」 1JS A 1205 JIS A 1205
計 縣 垣 目	粗骨材のすりへり試験	硫酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	現場密度の測定 地度 (2.36 mmフルイ) 地度 (75 μmフルイ) 平板載荷式験 土の液性限界・塑性限精試験 含水比試験
	ナ ナ の 色		必 領 そ の 包
種 記	***		福 日
工種	⊗ 上層路盤		

満 5.7					
試験成績 表等による 確認			0		
摘要		 ・安定処理材に適用する。 ・中規模工事:2,000㎡とよる。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 る。 ・300㎡以下は省略できる。 	 ・中規模工事:2,000㎡以上とる。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・300㎡以下は省略できる。 	・中規模工事:2,000㎡以上とる。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書こよることができ る。 ・300㎡以下は省略できる。	
試 颗 基 準		・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	
規格値		下層路盤:一軸圧縮強き [7日間] 0.98Mpa 以上 上層路盤:一軸圧縮強き [7日間] 2.9Mpa (アスファルト舗装) 2.0 Mpa以上 (セメントコンクリート舗装)	下層路盤:10%以上上層路盤:20%以上	下層路盤 塑性指数PI:9以下 上層路盤 塑性指数PI:9以下	
試驗方法		「組装調査・計験注便 覧」[4]-102	「組装調査・試験法便 覧」[4]-68	JIS A 1205 「舗装調査・試験注 便覧」[4]-167	
試 縣 項 目	アスファルト舗装に準じる	一 <u></u> 柳王将舒豫	骨材の修正GBR試験	上の液性限界・塑性限界計験	
試 区分		必 領			
種別		本 菜			
日 独	9アスファルト安定 処理路盤	2.セメント安定処理路盤			

			Г	
試験成績 表等による 確認				
摘	 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 る。 ・300㎡以下は省略できる。 			・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・300㎡以下が省略できる。
試 縣 基 準	 ・中規模以上の工事:定期的文 は適時(1回~2回/目) ・中規模以上の工事:異常が認 められたとき ・2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡ に つき1値加算する。 		観察により異常が認められた 時。	・中規模以上の工事:異常が認められたとき(1回~2回/日)
值	以内 測定値の平均値 Xn X ₃ -96.5%以上 X ₁ -c ² 95.5%以上 X ₇ -c ² 95.6%以上 X ₇ -c ² 85.5%以上 X ₇ -c ² 85.5%以上	▼7~10=89%以上		
規格		八88%以上	による。	Ā
	2. 36 mm.>· S· S· S· T· T· S· Δ· T· T· S· Δ· Δ· S· S· Δ· Δ·	た場合)	設計図書に	土1.2%以内
試驗方法	JIS A 1102 JIS A 1102 [舗装調査・試験法 便覧」[4]-256 砂置換法(JIS A 1214) 砂置換法は、最大粒 径が53m以下の場合 のみ適用できる		JIS A 1203	「舗装調査・試験法 便覧」 [4]-213、 [4]-218
試験項目	粒度 (2.36 mmフルイ) 粒度 (75 μmフルイ) 現場密度の測定		含水冶獭	セメント量試験
類 区	☆ 無		N	の 街
種別	超 丨			
工 種	01セメント安定処理路盤			

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
摘	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略できる。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。る。・当初、試験練り検査結果により省略する。
計 縣 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前
規格値	JIS A 5001表2参照	表層・基層 表乾溶度:2.45g/cm³以上 吸水率 :3.0%以下	粘土、粘土塊量:0.25%以下	御長、あるいは偏平な石片:10%以下
試驗方法	JIS A 1102	JIS A 1109 JIS A 1110	JIS A 1137	(補装調査・試験法 (便覧) [2]-51
計 縣 項目	骨材のふるい分け試験	骨材の密度及び吸水率試験	骨材中の粘土塊量の試験	粗骨材の形状試験
湖 区	⇒ 産	•	•	•
種別	茶菜			
工 種	11 アスファルト舗	E 뇄		

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
摘	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。	 ・ 火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・ 中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・ 小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・ 材料の品質証明書によることができる。 ・ 当初、試験練り検査結果により省略する。 する。 	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。
計 縣 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前
規格値	便覧 表3.3.17による。	1%以下	4以下	50%以下
試驗方法	JIS A 5008	JIS A 5008	JIS A 1205	「舗装調査・試験法 (更覧」[2]-83
計 颗 項 目	フィラー (補装用石灰石粉) の約度試験	フィラー (舗装用石灰石粉)の水分試験	フィラーの塑性指数試験	フィラーのフロー試験
熊 区	⇒ ₩	•	その 色	
種 記	本 菜			
工 種	11 アスファルト	#		

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0	0	0	
審	・人成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・当初、試験練り検査結果により省略	9	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができ	る。 ・300㎡以下は省略できる。			
試験基準			・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時	・小規模以下の工事:施工前			
規格 値	3%以下	1/4以下	水浸懶脹比: 2. 0%以下	SS 表乾比重:2. 45g/cm³以上 吸水率 :3.0%以下	すり減り量 砕石:30%以下 CSS:50%以下 SS:30%以下	損失量:12%以下	
試驗方法	「舗装調査・試験法 便覧」[2]-74	「舗装調査・試験法 便覧」[2]-78	[紺装調査・試験法 便覧] [2]-94	JIS A 1110	JIS A 1121	JIS A 1122	
計 纂 垣 田	フィラーの水浸膨脹試験	フィラーの剥削抵抗性誘動	製鋼スラグの水浸膨張性試 験	製鋼スラグの密度及び吸水 率試験	粗骨材のすりへり討験	硫酸ナトリウムによる骨材 の安定性試験	
湖 区	その句	1	1	1	1	I	
事 <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u> </u> <u> </u> <u> </u> <u> </u> <u></u>	本 菜						
工 種	11 アスファルト舗装						

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
摘	 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。。 	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。る。・当初、試験練り検査結果により省略する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。5。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・300㎡以下は省略できる。
試験基準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前
規格値	維技施工便覧参照 ・舗技用石油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3 ・セミブローンアスファルト:表3.3.4	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4
試驗方法	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2207
誤 攤 田	針入吏討職	軟化点試験	伸馬機	トルエン可容分割験
瀬 区	か の 名			
種別	本			
工 種	11 アスファルト舗	E 採		

## 6				
試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
摘要	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・300㎡以下は省略できる。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。5。
試 験 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前
規格値	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3 ・セミブローンアスファルト:表3.3.4	維装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3 ・セミブローンアスファルト:表3.3.4	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト: 表3.3.3 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4
試験方法	JIS K 2265-1 JIS K 2265-3 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2207
試 験 項 目	引火点試験	潮萸11嗽赤珠	蒸発後の針入度比試験	密度計變
	その色			
種別	本 菜			
日 種	11 アスファルト	 無		

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0
摘要	 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることができる。 る。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。・当初、試験練り検査結果により省略する。ち。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。・材料の品質証明書によることができる。る。・当初、試験練り検査結果により省略する。	
試 縣 基 準	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・中規模以上の工事:定期的またば御時。 ・小規模以下の工事:異常が認められたとき。 ・印字記録の場合:全数または 抽出・ふるい分け試験 1~2回/日
規格値	舗技施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト:表3.3.4	維技施工(更覧参照 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	舗装施工(更覧参照・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3	2.36mmふるい:土12%以上基準均度
試驗方法	「維 <u>基調査・試験</u> 法便 覧」[2]-212	[結基調査・試験法便 覧」[2]-224	「維装調査・試験法便 覧」[2]-289	補 技調 査・試験法便 覧] [2]-16
試 縣 項 目	高温斯坦克試験	60°C*北度試験	タフネス・テナシティ討職	粒度(2.36mフルイ)
瀬 区	か の 名			☆ 紙
重 园	女 츛			プレント
工 種	コアスファルト舗	誤業		

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0	0	0		
摘要				アスファルト混合物の耐泉開性の確認	アスファルト混合物の耐流動性の確認	アスファルト混合物の両摩粕性の確認	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
計 繁 基 準	・中規模以上の工事:定期的または勧告。	・小規模以下の工事:異常が認められたとき。・印字記録の場合:全数または抽出・ふるい分/は微 1~2回/日	随時	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	2.000mまでは3個、2,000m ³ を超える場合は、1,000m ³ につき1個加算する。	随寺
規格値	75μm-3-るい: 土5%以内基準約度	アスファルト量:±0.9%以内	配合設計で決定した混合温度	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	車 道 基準密度 X _x -96.0%以上 歩 道 取4%以上 X _x -0.6.0%以上 歩 道 基準密度 X _x -0.0%以上 財力の以上 X _x -0.0%以上 X _x -0.0%以上 がよいただし、混合物の種類によって 数均しが困難な場合や、中温化技術により 施団が効果の高いローラを使用する場合、 総国め効果の高いローラを使用する場合な とは、所定の締団め度が得られる範囲 で、適切な温度を設定	
試験方法	紺奘調査・試験 法便 覧][2]-16	「維装調査・討機法便 覧」[4]-318	温度計による。	舗装調査・試験法 便覧 [3]-65	舗装調査・試験法 便覧 [3]-44	舗装調査・試験法 便覧 [3]-18	「維装調査・計算法度 覧」[3]-218 温度計でよる	目視
計 繁 項 目	粒度 (75 μmフルイ)	アスファルト量抽出粒度分析 試験	温度測定 (アスファルト・骨 材・混合物)	水浸ホイールトラッキング試験	ホイールトラッキング試験	ラベリング試験	現場密度の測定温度測定(初東法計)	外観検査(混合物)
照 区	芍	無		И	76:		ź W	
種別	%1	レント					維設思場	
工 種	11 7	スファルト雄	= 採					

試験成績 表等による 確認							0	0	0	0
摘要					含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむを得ずおこなえない場合に適用する。なお、測定方法は試験の迅速性から直火法によるのが望ましい。		必要に応じて討働成績表等による確認 を行なう。	必要に応じて討動成績表等による確認 を行なう。	必要に応じて討動成績表等による確認 を行なう。	ホワイトペースに使用する場合:40%以 下 必要に応じて討りが積表等による確認 を行なう。
試 験 基 準	舗設車線毎200m毎/こ1回	洲初	当初	当初	当初	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回	細骨材300 ㎡、粗骨材500㎡ ごとに1回、あるいは1回/日。	細骨材料300m。粗骨材料500m。 ごとに1回、あるいは1回/日。	工事開始前、材料の変更時	工事開始前、材料の変更時
規格値	設計図書による。	舗接施工便覧8-3-3/こよる。 目標値修正VC値:50秒	舗装施工便覧8-3-3/2よる。 目標値 締固め率:96%	舗装施工便覧8~3~3~よる。 目標値 締固め率:97%	設計図書による。	設計図書による。	舗装施工便覧 細骨材料表一3.3.20 粗骨材料表一3.3.22	設計図書による。	設計図書による。	35%以下 積雪寒冷地25%以下
試驗方法	「쇎装調査・試験法便 覧」[1]-101		(素) 「転送が付替が」(案)	※いずれか1方法	JIS A 1203	JIS A 1106	JIS A 1102	JIS A 1104	JIS A 1109 JIS A 1110	JIS A 1121
試 颗 項 目	すべり抵抗試験	コンンストンジーで記録	マーンャル突き固め試験	ランマー突き固め試験	含水比試験	コンクリートの曲げ強度指験	骨材のふるい分試験	骨材の単位容積質量試験	骨材の密度及び吸水率試験	粗骨材のすりへり試験
翼 区	かe 名				か の 名		W 6	到		
種別		<u> </u>			小されたレディーミク	ストコンク	リートを使用	する場合	見後く)	
工種		12	圧コン	グリー						

試験 成績 表等による 確認	0	0	0	0	0	
摘 要		濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。		観察で問題なければ省略できる。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	
試 颗 基 準	工事開始前、材料の変更時	工事開始前、材料の変更時	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色が標準色液の色が濃極を液の色より濃い場合。	工事開始前、材料の変更時	工事開始前、材料の変更時	
規格 値	粗骨材 砕石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率 が88%以上の場合は5.0%以下 スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂、スラグ細骨材 5.0%以下 それ以外 (砂等) 3.0%以下 とれ以外 (砂等) 3.0%以下 砂で粘土、シルト等を含まない場合は5.0% 以下)	標準色より終いこと。濃い場合でも圧縮強度が30%以上の場合は使用できる。	圧縮強度の90%以上	海骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	
試驗方法	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1122 JIS A 5005	
計 縣 項 目	骨材の機能分量試験	砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度による砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験	硫酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	
湖 区	か 6 有					
種別	材料(JISマーク表示されたレディー	-ミクストコ	ンクリートを	使用する場合は除く)		
工 種	27 転圧コンクリート					

試験成績 表等による	確認)				0						0						0					()		
権											上水道を使用している場合は試験に換	え、上水道を使用していることを示す資	料による確認を行う。					その原水は上水道水及び上水道水以外	の水の規定に適合するものとする。				・レディーミクストコンクリートの場	合、印字記録により確認を行なう。				
		工事開始前、工事中1回/月以上				工事開始前、工事中1回/月以上					工事開始前、工事中1回/年以上	及び水質が変った場合。						工事關始前、工事中1回/年以上	及び水質が変った場合。	スラッジ水の濃度は1回/目			工事開始前、工事中1回/6ヶ月	以上				
規格値		R	JIS K 3ZII (同が"ヒケノト) TIS D 5919(ジノ! セセス``ト)	R 5213	- 2	JIS R 5210 (ポルトランドセメント)	JIS R 5211 (高炉セメント)	JIS R 5212 (シリカセメント)	JIS R 5213 (フライアッシュセメント)	JIS R 5214 (エコセメント)	<u> 懸蜀物質の量:2g/0以下</u>	溶解性蒸発残留物の量:1g/0以下	塩化物イオン量:200ppm以下	セメントの織神間の差:始発は30分以内、	終結は60分以内	モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で	90%以上	塩化物イオン量:200ppm以下	セメントの綱結計間の差:始発は30分以内、	終結は60分以内	モルタルの圧縮的度比:材齢7及028日で	30%以上	水: ±1%以内	セメント: ±1%以内	骨材: ±3%以内	混和材:土2%以内	(高炉スラグ微粉末の場合は土1%以内)	混和剤:土3%以内
試験方法		JIS R 5201				JIS R 5202					上水道水及び上水道	水以外の場合:	JIS A 5308	付属書C				回収水の場合:	JIS A 5308	付属書C								
試 縣 項目		セメントの物理試験				ポルトランドセメントの化学	分				練混ぜ水の水質試験												計量設備の計量精度					
誰 区 盤 ハ	×Ή,	7	ν (5 3	2																							
種目	別	1	ΣŽ	t (J	IS ⊳-	-4	委示	され	たフ	ディ	<i>11</i>	レグ	< <u>~</u> !	17	クリ		を伸	無	~ <i>V</i> Q⊒	Mai:	は除	<u>~)</u>						
Н #	重	12	散日	ĮП.	ンク	<u> </u>	- 4																					

試験成績 表等による 確認	0	0	0 0
蕭	・総使用量が50m*未満の場合は1回以上。 または、レディーミクストコンクリート 工場(JISマーク表示器正工場)の品質 証明書等のみとすることができる。	 ・総使用量が50m*末満の場合は1工種1 回以上。または、レディーミクストコンクリート工場(IISマーク表示器正場) の品質証明書等のみとすることができる。 	・レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。 ・レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。
計 纂 基 準	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	2回/月以上1回/月以上
規格 値	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート内のモルタルの偏差率:0.8% 以下 エンクリート内の粗骨材量の偏差率:5% 以下 コンクリート中の空気量の偏差率:10% 以下 コンクリート中の空気量の偏差率:10% 以下	コンクリート中のモルタル単位容積質量 差:0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以 下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下	設計図書による
試驗方法	バッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-2 JIS A 8603-2	連続ミキサの場合: 七木学会基準 JSCE- I 502-2013	JIS A 1111 JIS A 1125
計 縣 項 目	ミキサの練足也性能誘致		細骨材の表面水率試験 粗骨材の表面水率試験
類 区 聚 分	その 色		•
種 尼	製造(プラント)(JISァーク表示された)	ディーミクストコンクリートを使	用する場合は除く)
工 種	27 転用コンクリート		

試験成績 表等による 確認							
摘							
計 縣 基 準	182回 (午前。午後) 以上、そ の他コンシステンシーの変動が 認められる場合などに随時実施	する。 ただし、 連般 車ごとに目視観察 を行う。		2回/日 (午前・午後) で、3本1組/回 (材令28日)	2回/日(午前・午後)以上	40mに1回 (横断方向に3ヶ所)	1,000㎡に1個の割合でコアを 採取して測定
規格値	修正VC値の±10秒	目標値の土1.5%	目標値の土1.5%	・記範回数が7回以上 (1回は3個以上の供試体の平均値) の場合は、全部の記職値の平均値が所定の合格判断強度を上まわるものとする。 ・記験回数が7回末満となる場合は、 ①1回の試験結果は配合基準強度の85%以上 ②3回の試験結果の平均値は配合基準強度		基準密度の95.5%以上	
試驗方法		「維装調査・試験法便 覧」[3]-290 ※いずれか1方法		JIS A 1106	温度計による。	RI水分密度計	[쇎装調查·試験法便 覧][3]-300
計 瞬 垣 田	コンシステンシーVC影響	マーシャル突き固め試験	ランマー突き固め試験	コンクリートの曲げ強度試験	温度測定(コンクリート)	現場密度の測定	コアによる密度測定
照 区	必 紙						
種 脳	掲 H						
工種	12 萬田	コンクリー	<u></u>				

試験成績 表等による 確認	n net	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
華	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。						・中規模工事:2,000㎡以上とする。	・小規模工事:2,000㎡未満とする。		・規格値は、石油アスファルト(針	入度20~40) にトリニダットレイクア スファルトを混合したものの性状値で	ある。 ・中規模工事:2,000㎡以上とする。	・小規模工事:2,000㎡未満とする。				
財 縣 駐 準	中規模以上の工事:施工前、 材料変更時	・小規模以下の工事:施工前					中規模以上の工事:施工前、	材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前									
規格値	JIS A 5001 表2参照	表層·基層 表乾比重:2.45g/om³以上 吸水率 :3.0%以下	粘土、粘土塊量:0.25%以下	細長、あるいは偏平な石片:10%以下	便覧表3.3.17/こよる	1%以下	30%以下	損失量:12%以下	軟石量:5%以下	15~30 (1/10mm)	28~88	10cm以上 (25°C)	%I6~98	240°CULE			
試験方法	JIS A 1102	JIS A 1109 JIS A 1110	JIS A 1137	「維装調査・試験法 便覧」[2]-51	JIS A 5008	JIS A 5008	JIS A 1121	JIS A 1122	JIS A 1126	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2265-1	JIS K 2265-2	JIS K 2265-3	JIS K 2265-4
至 選 選	骨材のふるい分け試験	骨材の密度及び吸水率試験	骨材中の粘土塊量の試験	粗骨材の形状試験	フィラー (舗装用石灰石粉) の地度試験	フィラー (補装用石灰石物) の水分試験	粗骨材のすりへり試験	硫酸ナトリウムによる骨材 の安定性試験	粗骨材中の軟石量試験	針入吏試験	軟化点試験	伸度試験	トンエン可容分割験	引火点試験			
熊 区	芍	無		•			И	h 6 \$	₽			•		•			
重 別	\$	菜															
工 種	g グースアスファイト舗装																

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘要	・規格値は、石油アスファルト(針 入度20~40)にトリニダットレイクア スファルトを混合したものの性状値で ある。	・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする。					・中規模工事:2,000㎡以上とする。・小規模工事:2,000㎡未満とする				測定値の記録は、1日4回(午前2回・午後2回)
東 署 雑	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時・小規模以下の工事:施工前		配合毎に各1回。ただし、同一 配合の合材100t未満の場合も 実施する。				・中規模以上の工事: 定期的ス は御時	・小規模以下の工事:異常が認められたとき	印字記録の場合:全数又は抽出・ふるい分け試験1~2回/ 日	随時	随寺
規格値	0.5%以下	$1.07\sim 1.13 \mathrm{g/cm^3}$	貫入量 (40°C) 目標値 表層:1~4mm 基層:1~6mm	3~20秒(目標値)	300KE	破断ひずみ (-10°C,50mm/min) 8.0×10°以上	2.36mmふるい: ±12%以内 基準位度	75μmふるい:土5%以内基準的度	アスファルト量:±0.9%以内	アスファルト:220℃以下 石粉:常温~150℃	
試験方法	JIS K 2207	JIS K 2207	舗装調査・試験法 便覧』[3]-315	「緋装調査・試験法 便覧」[3]-320	「舗装調査・試験法 便覧」[3]-39	「緋装調査・試験法 便覧」[3]-69	「紺装調査・試験法 便覧」[2]-16	「緋装調査・試験法 便覧」[2]-16	「舗装調査・試験法 (更覧」[4]-318	温度計による。	温度計による。
試験項目	蒸発質量変化率試験	密度試験	貴入款場40°C	リュエル流動性試験240°C	ホイールトラッキング試験	曲付款	粒度 (2.36mmフルイ)	粒度 (75μmフルイ)	アスファルト量抽出粒度分析試験	温度測定 (アスファルト、骨材、混合物)	温度測定(初東云上前)
翼 区	₩ E ₹	<u> </u>	3 海								必 無
類 別	林 菜		プラント								維設思場
工 種	引 グースア	スファルー	上舗装								

試験成績 表等による 確認																										
新 摘 要	監督員との協議の上で、 (再) 転圧を 行うものとする。				左記の規格値を満たしていても、規格値	を著しく下回っている点が存在した場	合は、監督員との協議の上で、(再)転	圧を行うものとする。			・最大粒径<100mmの場合に適用する。	・左記の規格値を満たしていても、規格	値を著しく下回っている点が存在した	場合は、監督員との協議の上で、(再)	転圧を行うものとする。											
対 縣 基 準		当初及び土質の変化したとき。			500㎡につき1回の割合で行な	\sim	ただし、1,500m3未満の工事は1	工事当たり3回以上。	1回の試験につき3孔で測定し、	3孔の最低値で判定を行う。	盛土を管理する単位(以下「管	理単位」)に分割して管理単位	ごとに管理を行うものとす	%	1日の1層あたりの施工面積を	基準とする。管理単位の面積は	1,500㎡を標準とし、1日の施工	面積が2,000m以上の場合、その	施工面積を2管理単位以上に分	割するものとする。1管理単位	あたりの測定点数の目安を以下	(云子)。	• 500m²未満:5点	・500㎡以上1000㎡未満:10点	・1000㎡以上2000㎡未満:15点	
規格値	設計図書による。	設計図書による。			設計図書による。						設計図書による。															
試験方法	JIS A 1210	「舗装調査・試験法	便覧」[4]-227、	[4]-230	最大粒径≦53mm:	砂置換法 (JIS A 1214)		最大粒径>53mm:	突砂法 (維裝調査・試	験法便覧[4]-256)	又は、	RI計器を用いた盛土	の締固め管理要領	溪												
試 縣 項 目	土の納留め討験	CBR討験							現場密度の測定	※右記試験方法 (3種類) の	いずれかを実施する。													(次頁)こ続く)		
試 区 験 分	☆ 雀	K			;	芍	뗐																			
種別	拉兹						Н																			
工 種	4 路 4	※ 英	定	以	型	Н																				

試験成績 表等による 確認						
播		荷重車については、施工時に用いた転圧 機械と同等以上の締固効果を持つロー ラやトラック等を用いるものとする。	セメントコンクリートの路床に適用する。			
試 颗 基 準	1 盛土を管理する単位 (以下 「管理単位」) に分類して管理 単位毎に管理を行う。 2 管理単位は築堤、路体、路床 とも1日の1層当たりの施工面積 は1,500㎡を標準とする。また、 1日の施工面積が2,000㎡以上 の場合、その施工面積を2管理単 位以上に分割するものとする。 3 1日の施工が複数層に及ぶ場 合でも1管理単位を複数層にま たがらせることはしないものと する。 4 土取り場の状況や土質状況 が変わる場合には、新規の管理 単位として取り扱うものとする	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	延長40mにつき1ヶ所の割合で 行う。	各車線毎に延長40mにつき1回 の割合で行う。	降雨後又は含水比の変化が認め られた時に行う。	プルーフローリングでの不良個 所こついて実施。
規格値	施工区間を小分割した管理ブロックの全て が規定回数だけ締め固められたことを確認 する。ただし、路肩から1m以内と締固め機 被が近寄れな、構造物周辺は除く。			設計図書による。		
試驗方法	又は、 「TS・GNSSを用いた盛 土の締固め管理要領」 (国土交通省) による。 る。	「舗装調査・試験法便 覧」[4]-288	JIS A 1215	JIS A 1222	JIS A 1203	「舗装調査・試験法便 覧」[1]-284 (ベンゲルマンビーム)
就繁項目	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)の いずれかを実施する。	プルーフローリング	平板載荷試験	現場CBR討職	含水比試驗	たわみ量
置	⇒ 無		その街			
重配	1 路 庆 安 定 処 理 工 施 工					
工種	日田万万天夕末二					

試験成績 表等による 確認			
諸 要 裁約	配合を定めるための試験である。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。	 最大粒径 ・ 走記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。
試 縣 基 準	当初及び土質の変化したとき。	500 m ³ につき1回の割合で行な う。 ただし、1,500m ³ 未満の工事は 工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3 孔の最低値で判定を行う。	盛士を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位ことに管理を行うものとする。 1 日の1 層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500mを標準とし、1 日の施工面積が2,000m以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1 管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500mが上1000mが上1000mが上100mが上1000mが上1000mが表満:15点・1000mが上1000mが表満:15点・1000mが上1000mが表満:15点
規格値	設計図書へよる。	設計図書による。	設計図書による。
試驗方法	JIS A 1216	最大粒径≤53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径>53mm: 突砂法 (補基調查・試 験法便覧[4]-256)	又は、 RI計器を用いた盛士 の締固め管理要領 (案)
紫水	上の一軸圧縮減		現場密度の測定 ※右記録が方法 (3種類) の いずれかを実施する。 (次頁に続く)
照 区	その色	夕 Ж	
種 別	林幸	据 H	
工種	比表層	安定処理工 < 1	表 層 混 合 処 理 >

試験成績 表等による 確認					
麓殿		荷重車こついては、施工時に用いた転圧 機械と同等以上の締固め効果を持つロ ーラやトラック等を用いるものとする。			
対	1 虚土を管理する単位(以下 「管理単位」)に分類して管理 単位毎に管理を行なう。 2 管理単位1築堤、路体、路床 とも1日の1層当たりの施工面積 は1,500㎡を標準とする。また、 1日の施工面積が2,000㎡以上 の場合、その施工面積を2管理単 位以上に分割するものとする。 3 1日の施工が複数層に及ぶ場 合でも1管理単位を複数層に及ぶ場 合でも1管理単位を複数層に及ぶ場 たがらせることはしないものと する。 4 土取り場の状況や土質状況 が変わる場合には、新規の管理 単位として取り扱うものとす る。	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	各車線ごとに延長40mにつき1回 の割で行う。	500㎡につき1回の割合で行う。た だし、1,500㎡未満の工事は1工事 当たり3回以上。	プルーフローリングでの不良 個所こへいて実施。
規格値	施工区間を小分割した管理ブロックの全て が規定回数だけ締め固められたことを確認 する。 ただし、 路肩から1m以内と締固め機 被が近寄れない 構造物周辺は除く。		設計図書による。		
試驗方法	又は、「TS・GNSSを用いた盛 上の締固め管理要領 (国土交通省) による。	「舗装調査・試験法便 覧」[4]-288	JIS A 1215 JIS A 1222	JIS A 1203	「維装調査・試験法便 覧」[1]-284 (ベンガルマンビーム)
計 瞬 項 目	現場密度の測定 ※右記球験方法(3種類)の いずれかを実施する。	プルーフローリング	平板載荷討職 現場CBR試験	含水比試験	たわみ量
	岁		*	の 色	,
種 別	着 月				
工 種	5.表層安定処理工 <表層混合処理>				

試験成績 表等による 確認			
蓋	配合を定めるための討嫌である。	能口でためるための記載である。 ・ボーリング等により供試体を採取する。 ・改良体の強度確認には、改良体全長の連続性を確認したボーリングコアを利用してもよい。	・改良体の強度確認には、改良体全 長の連続性を確認したボーリングコ アを利用してもよい。
試 縣 基 準	当初及び土質の変化したとき、エカロン・エカロン・エカロン・エカロン・エルー・エルー・エルー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー	当的及び工員の後指したこと 改良体の上端から下端までの 全長をボーリングにより採取 し、全長において連続して改 良されていることを目視確認 する。 改良体500本末満は3本、500 本以上は250本増えるごとに1 本追加する。 現場の条件、規模等により上 記によりがたい場合は監督職 員の指示による。	改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。試験は1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。ただし、1本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度を交えている場合は、各設計強度を核等により上記によりがたい場合は監督員の指示によりがたい場合は監督員の指示による。
規格値	設計図書による。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験 値の平均値で表したもの		①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したもの
試験方法	JIS A 1216	ボーリングコアの目視確認	JIS A 1216
黙 霽 項 目	七の一軸圧循環	プルタイム Pro映 改良体全長の連続性確認	上の一軸圧縮部域 (改良体の強度)
談 区	☆ 黴	☆ 無	
種別	拉 菜	福 日	
工 種	16 国 架 上	-	

が たる しる										
試験成績 表等による 確認							0			
蕭		・ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	・ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	・定着時緊張力確認試験 ・ 残存引張力確認試験 ・ リフトオブ試験 等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験、1サイクル確認試験、2世イクル確認試験、1世イクル確認試験の計態結果をもとに、 監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。						
試驗基準	2回 (午前・午後) /日 練りまぜ開始前に試験は2回 行、その平均値をフロー値と	する。 ・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重/3計画最大荷重の約 0.1倍とし、引き抜き試験に 準じた方法で載荷と除荷を 繰り返す。	 ・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除く全て。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで載荷した後、初期荷重まで稼荷する1サイクル方式とする。 		当初及び土質の変化時。	補強士壁工法各設計・施工マニュアルによる。		設計図書による。		
規格 値	設計図書による。 10~18秒 Pロート (グランドアンカー設計施工マニュアル	に合わせる。) 設計アンカー力に対して十分に安全であること。	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	所定の緊張力が導入されていること。	設計図書による。	補強士壁工法各設計・施工マニュアルによる。				
試験方法	JIS A 1108 JSCE-F 521-2018	グランドアンカー設 計・施工基準 同解 説 (JGS4101-2012)	グランドアンカー 設計・施工基準、同 解説 (JGS4101-2012)	グランドアンカー設 計・施工基準 同解 説 (JGS4101-2012)	JIS A 1210	補強土壁工法各設 計・施エマニュアル による。				
紫海山	モルタルの圧縮強度試験モルタルのフロー値試験	適性試験 (多サイクル確認試験)	確認場 (1サイクル確認試験)	その他の確認試験	土の締固め試験	外観検査 (ストリップ、鋼製 壁面材、コンクリート製壁面 材等)	コンクリート製壁面材のコ ンクリート強度試験	土の約度試験		
照 区	☆ 雀	<u> </u>		その色	;	必 須		その他		
運 配	掲 ト					本 菜	ui i			
工種	77	以 ア ン カ − 工 ∞ 補 強 土 勤								

試験成績 表等による 確認		
権	 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議のうえで(再) 転任者行うものとする。 ・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験(JISA1210) C・D・弦対 「一般の橋台背面」 平均92%以上、かつ最小90%以上 「バデラが、小構造の橋台背面」 平均97%以上、かつ最小95%以上 	・最大性径く100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格 値を著しく下回っている点が存在した 場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。 ・ 橋台背面アプローチ部における規格 値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) [一般の橋台背面] 平均92%以上、かつ最小90%以上 「バデッが、小構造の橋台背面] 平均97%以上、かつ最小95%以上
計 縣 基 準	500㎡につき1回の割合で行なう。 う。 ただし、1,500㎡未満の工事は1 工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位ごと に管理を行うものとする。 路体・路床とも、1日の1層あ たりの施工面積を基準とする。 管理単位の面積は1,500㎡を標 準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積が2,000㎡以上に分割するもの こに数の目安を以下に示す。 ・500㎡、当に ・500㎡、大満:5点 ・1000㎡、以上2000㎡、未満:10点
規格 値	次の密度~の締固めが可能な範囲の含水上において、最大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JIS A 1210)A・B法)もしくは90%以上(締固め試験(JIS A 1210)C・D・B注)。 又は、設計図書による。	次の密度~の締固めが可能な範囲の含水比(こおいて、1管理単位の現場乾燥密度の平均(値が最大乾燥度密度の97%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)もしくは92%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。 又は、設計図書による。
試驗方法	最大松径≤53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大松径>53mm: 突砂法 (維持調査・ 計域法便覧[4]-256)	又は、 「RI計器を用いた盛 土の締固め管理要領 (案)」による。
試 颗 項 目	現場密度の測定 ※右記・験方法 (3種類) の いずれかを実施する。	(次頁72続く)
熊 夕	☆ 凞	
種別	摇 H	
工 種	8 権 強 土 壁	

試験成績	表等による	確認																	
	稇																		
	摘																		
	試 縣 基 準		1 盛土を管理する単位 以下「管	理単位」)に分割して管理単位	毎に管理を行う。	2 管理単位は築堤、路体、路床	とも1日の1層当たりの施工面	積は1,500㎡を標準とする。ま	た、1日の施工面積が2,000㎡以	上の場合、その施工面積を2管	理単位以上に分割するものとす	2°	3 1日の施工が複数層に及ぶ場	合でも1管理単位を複数層にま	たがらせることはしないものと	する。	4 土取り場の状況や土質状況が	変わる場合には、新規の管理単	位として取り扱うものとする。
	規格値		施工区間を小分割した管理ブロックの全て	が規定回数だけ締め固められたことを確認	する。ただし、路肩から1m以内と締固め	機械が近春れない構造物周辺は徐く。													
	試験方法		スパナ	「TS・GNSを用いた盛	土の締固め管理要領	(国土交通省) によ	%												
	試験項目		現場密度の測定	※右記試験方法(3種類)の	いずれかを実施する														
盤	武 区	K N		芍	浜														
推	軍	<i>Ъ</i> 1		施	Н														
1	- #	種	18	舞	強	+1	盘	Н											

大満 よる			
試験成績 表等による 確認	0	0	
旛			JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材- 第1部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材- 第2部: フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材- 第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材- 第4部: 電気炉砂化スラグ骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材- 第4部: 電気炉砂化スラグ骨材) JIS A 5011-5 (コンクリート用スラグ骨材- が上第5部: 石炭ガス化スラグ骨材) JIS A 5021 (コングリート用スラグ骨材) JIS A 5021 (コングリート用スラグ骨材)
計 縣 基 準	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 エポールが変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。
規格値	3つの対策の中のいずれか1つについて確認をとる。	武計凶書による。	維動密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.0%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニ ッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規 格値については適用を参照)
試驗方法	レディーミクストコ ンクリート取扱基準 による。	JIS A 1102 JIS A 5505 JIS A 5011−1~5 JIS A 5021	JIS A 1109 JIS A 5005 JIS A 5011−1~5 JIS A 5021
試 縣 項目	アルカリシリカ反応抑制対策	骨材のふるい分け試験	骨材の密度及び吸水率計勝
熊 区	必 無	その色	IS マーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く)
種別	拉 菜		
工 種	51 败付下	-1	

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0	0
摘要		・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による。 よる試験方法」による。		寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	
試 颗 基 準	工事開始前工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/ 週以上)	工事開始前、工事中1回/年以 上及び産地が変わった場合。	試料となる砂の上部における 溶液の色が標準色液の色より 濃い場合。	工事開始前、工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。	砂、砂料!: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上事問がでかった場合。
規格値	粗骨材: 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下スラグ粗骨材 5.0%以下それ以外(砂利等)1.0%以下 4.0%以下 4.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下(ただし、すりつ)作用を受ける場合は5.0%以下)	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度比が300%以上の場合は使用できる。	压縮強度の30%以上	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	細骨材:12%以下 粗骨材:12%以下
試驗方法	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1122 JIS A 5005
計繁項目	骨材の微粒分量試験	砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度による 砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験
課 区	その他(ボマーク表示されたレディ	ーミクスト	コンクリート	を使用す	~る場合は除く)
重 园	茶 茶				
工 種	61 改 付 工				

試験成績	表等による	確認	0	0	0	0			0			
	歯				上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する。	・レディーミクストコンクリートの場合、自字記録により確認を行なう。(動荷重検査記録等)・急給材は適用外			
	試 縣 基 準		工事開始前、工事中1回/月以 上		工事開始前及び工事中1回/ 年以上及び水質が変わった場合。	工事開始前及び工事中1回/ 年以上及び水質が変わった場合。 ろラッジ水の濃度は1回/日	2回/日以上	1回/月以上	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以			
	規格値		JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント)	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	監濁物質の量:2g/0以下 溶解性蒸発残留物の量:1g/0以下 塩(比約イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以 内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以 内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	設計図書による。	設計図書による。	水:土1%以内 セメント:土1%以内 骨材:土3%以内 混和材:土2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は土1%以内) 混和剤:土3%以内			
	試験方法		JIS R 5201	JIS R 5202	上水道及び上水道以 外の水の場合: JIS A 5308附属書C	回収水の場合: JIS A 5308附属書C	JIS A 1111	JIS A 1125				
	試 縣 項 目		セメントの物理活験	ポルトランドセメントの化 学分析	練足ゼオの水質試験		細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	<u>計量設備の計量精度</u>			
盎			その他(JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く) 必須 その他									
推			。 本				製	プラン	/上) (版 マーク表示			
1-	1 #	型	5 吹付工									

試験成績 表等による 確認	0	0
摘	・小規模工種※で1工種当りの総使用 量が50m*未満の場合は1工種1回以上。 また、レディーミクストコンクリート 工場(JISマーク表示認証工場)の品質 証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く 工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場 所打坑、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、 床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、 函渠工、	
試 縣 基 準	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年 以上。
規格値	コンクリートの練昆ぜ量 公称容量の場合 コンクリート内のモルタル量の偏差率: 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率: 5% 以下 圧縮強度の偏差率: 7.5%以下 コンシカリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率: 15%以下	コンクリート中のモルタル単位容積質量 差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差: 5% 以下 圧縮強度差: 7.5%以下 空気量差: 1%以下 スランプ差: 3cm以下
試驗方法	バッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	連続ミキサの場合: 上木学会基準 JSCE - I 502-2013
計 縣 項目	ミキサの練毘也性指記機	
器 区	か 6 有	
種 尼	されたレディーミクストコンクリートを使用する場合	世後~)
工 瘻	61 吹 付 H	

試験成績 表等による 確認			
諸 要 兼等 業等	・小規模工種※で1工種当りの総使用 量が50㎡未満の場合は1工種1回以上 の試験。またはレディーミクストコン クリート工場(JISマーク表示認証工 場)の品質証明書等のみとすることが できる。 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場 合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、ミキザの練 混ぜ性能計験の項目を参照。	・小規模工種※で1工種当りの総使用 量が50㎡未満の場合は1工種1回以上 の試験。またはレディーミクストコン クリート工場(JISマーク表示認証工 場)の品質記明書等のみとすることが できる。 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場 合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海 砂の塩化物イオン含有率試験方法」 (JSCE -C502-2018, 503-2018)または 設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の 場合は省略できる。 ※小規模工種については、上記と同様	 ・小規模工種※で1工種当りの総使用 量が50㎡未満の場合は1工種1回以上 の試験。またはレディーミクストコン クリート工場(JISマーク表示認証工 場)の品質証明書等のみとすることが できる。 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場 合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、上記と同様
財 難 選	吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配 置された型枠に工事で使用す るのと同じコンクリート (モル タル) を吹付け、現場で38日養 生し、直径50mmのコアーを切取 りキャッピングを行う。原則と して1回に3本とする。	コンクリートの打設が午前と 午後にまたがる場合は、午前に 1回コンクリート打設前に行 い、その試験結果が塩化物総量 の規制値の1/2以下の場合 は、午後の試験を省略すること ができる。(1回の測定回数は 新できる。(1回の測定回数は 3試料とする)試験の判定は3 試料の測定値の平均値で行う。	・荷卸し時 1回/日又は構造物の重要度 と工事の規模に応じて20~150 m³ごとに1回、及びに卸し時に 品質変化が認められた時。
規格値	3本の強度の平均値が材令28日で設計強度以上とする。	原則0. 3kg/m沙人下	スランプ5cm以上8cm未満: 計容差土1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 計容差土2.5cm
試驗方法	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会基準 JSCE- F 561-2013	レディーミクストコンクリート取扱基準 による。	JIS A 1101
www. Na	コンクリートの圧縮強度試験	塩化が終量規制	スランプ討験(モルタルを除く)
	之 	か 6 有	
重 配	61 以 付 工 組 工		
工種			

試験成績 表等による 確認			0	0	0				
離	・小規模工種※で1工種当りの総使用 量が50㎡未満の場合は1工種1回以上 の試験。またはレディーミクストコン クリート工場(JISマーク表示認証工 場)の品質証明書等のみとすることが できる。 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場 合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、ミキサの練 混ぜ性結試験の項目を参照。			必要に応じて試験成績表等による確認を行なう。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕的) JIS A 5011-1 (コンクリート用ネラグ骨材- 第1部: 高炉スラゲ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材- 第2部: フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材- 第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材- 第4部: 電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5011-6 (コンクリート用スラグ骨材- 第4部: 電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5011-6 (コンクリート用スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用スラグ骨材)				
試 颗 甚 準	・荷卸し時 1回/日又は構造物の重要度 と工事の規模に応じて20~150 m³ごとに1回、及び荷卸し時に 品質変化が認められた時。	品質に異常が認められた場合 に行う。	骨材試験を行う場合は、工事開 始前、工事中1回/6月以上及 び産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。				
規格 値	土1.5% (許容差)	設計図書による。	3つの対策の中のいずれか1つについて 確認をとる。	設計図書による。	総乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニ ッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規 格値こついては摘要を参照)				
試験方法	JIS A 1116 JIS A 1128	JIS A 1107	レディーミクストコ ンクリート取扱基準 による。	JIS A 1102 JIS A 5505 JIS A 5011−1∼5 JIS A 5021	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011−1∼5 JIS A 5021				
紫海田	空気量測定(モルタルを除く)	コアによる強度試験	アルカリシリカ反応抑制対策	骨材のふるい分け試験	骨材の密度及び吸水率試験				
類 区	か		必 魚	その街(King	マーク表示されたレディーミクストコン				
種別	7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		な様						
工種	19 女女工		20 温	吹付法枠					

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0	0
蓋		・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による影験方法」による。			寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。
計 器 駐 準	工事開始前工事中1回/月以 上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/ 週以上)	工事制始前、工事中1回/年以 上及び産地が変わった場合。	試料となる砂の上部における溶液の色が漂体の色が標準色液の色より濃い場合。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以 な砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以 上及び産地が変わった場合。
規格 値	粗骨材: 砕石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下細骨材: 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すりへ)作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すりへ)作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すりへ)作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すりへ)作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すりへ)作用を受ける場合は5.0%以下 (ただし、すり	標準色より終いこと。濃い場合でも圧縮強度比が300%以上の場合は使用できる。	圧縮的重の90%以上	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	維骨材:12%以下 粗骨材:12%以下
試驗方法	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1122 JIS A 5005
計	骨材の微粒分量試験	砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度による 砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験
點 区	リートを使用する場合は除く)		•		•
種 別	本 菜				
工 種	2. 現場吹付法枠工				

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0	0	0									
播			上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す 資料による確認を行う。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。									
	工事聯結、工事中1回/月以上	工事聯始、工事中1回/月以上	工事開始前及び工事中1回/ 年以上及び水質が変わった場合。	工事開始前及び工事中1回/ 年以上及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	2回/日以上	1回/目以上									
規格値	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	懸濁物質の量:2g/0以下 溶解性蒸発残留物の量:1g/0以下 塩(化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以 内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	塩化物イオン量:200ppm以下 セメント磁神特間の差: 姉発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上	設計図書による。	設計図書による。									
試驗方法	JIS R 5201	JIS R 5202	上水道及び上水道以 外の水の場合: JIS A 5308 附属書C	回収水の場合: JIS A 5308 附属書C	JIS A 1111	JIS A 1125									
試験項目	セメントの物理試験	セメントの化学分析	練混ぜ水の水質試験		細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験									
熊 区	から (JIS ♪ー・	ク表示されたレディー	-ミクストコンクリートを使	用する場合は除く)	対(
種 別	対対対	111 -21 1 1			製造	(<u>N</u>)									
工 種	23 瑪 號 吹 付	没 枯 T			2. 現場吹付法枠工										

10	試験成績 表等による 確認	0	0	0
#	瞅	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認証工場)の品質証明書等のみとすることができる。※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋柏、橋瀬、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、権壁工(高さ1m以上)、図渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)	
2	擮	工事쀘始前、工事中1回/6ヶ 月以上	工事開始前及び工事中1回/年以上。	
種 別	奉	水:±1%以内 セメント:±1%以内 骨材:±3%以内 混和材:±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤:±3%以内	リ 量 タ ど ク 強 ク シ % 量 ク % ク	コンクリート中のモルタル単位容積質量 差:0.8%以下 コンクリート中の単位湘骨材量の差: 5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下
種別 表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く) 終め その他	試験方法		バッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-2 JIS A 8603-2	連続ミキサの場合: 七木学会基準 JSCE-I 502-2013
種別表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く)	試驟項	計量設備の計量精度	ミキサの権限と性信急場	
	試 区 験 分	か 6 名		
Ll ≡ 2	種 別			

試験成績 表等による	確認	
権		・参考値:18V/m²以上(材令28日) ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m²未満の場合は1工種1回以上。また、レディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認証工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、青欄等)、纏煙工(高さ1m以上)、図渠工、樋門、種管、水門、水路(内隔2.0m以上)、護柴、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種) ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m²未満の場合は1工種1回以上。また、レディーミクストコンクリート工場(JIS表示認証工場)の品質証明書等のみとすることができる。 1工種当たりの総使用量が50m²以上の場合は、50m²ごとに1回の討験を行う。 ※小規模工種については、コンクリートの圧縮強度試験の項目を参照
試 縣 基 準		1回6本 吹付1日につき1回 行う。なお、テストピースは現場に配するのと同じコンクリート (モルタル)を吹付け、現場で 日間及び28日間放置後、ゆ5cmのコアーを切り取りキャッピング を行う。1回に6本(の7・・・・3 本、の28・・・・3本)とする。 本、の28・・・・3本)とする。 品質変化が認められた時。 品質変化が認められた時。
規格値		設計図書による スランプ5cm以上8cm未満: 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 許容差±2.5cm
試験方法		JIS A 1107 JIS A 1108 上水学会基準 JSCE-F 561-2013 JIS A 1101
試 颗 項 目		コンクリートの圧縮強度試験 スランプ部級 (モルタルを除く)
器 2	X 次	必 後 名
標 :	別	模 H
Н \$	重	2. 現場吹付法枠工

試験成績 表等による 確認			
蕭	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上。また、レディーミクストコンクリート工場(JIS表示認正上場)の品質証明書等のみとすることができる。 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡とに1回の試験を行う。・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE ーC502-2018, 503-2018)または設計図書の規定により行なう。 ※小規模工種については、コンクリートの圧縮独度試験の項目を参照	・小規模工種※で1工種当りの総使用 量が50㎡未満の場合は1工種1回以 上。また、レディーミクストコンクリ ート工場(JIS表示認正場)の品質証 明書等のみとすることができる。 1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場 合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種については、コンクリート の圧縮趙度試験の項目を参照	
試 縣 基 準	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1 回コンクリート打設前に行い、 その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・荷卸し時 1回/日又は構造物の重要度 と工事の規模に応じて20~150 m³ごとに1回、及び精卸し時 に品質変化が認められた時。	設計図書による。 品質に異常が認められた場合に 行う。
規格値	原則0. 3kg/m ³ 以下	土1.5% (許容差)	引抜き耐力の80%程度以上 設計図書による。
試驗方法	「コンクリートの耐久性向上」	JIS A 1116 JIS A 1128 JIS A 1128	参考資料「ロックボル トの引抜試験」による JIS A 1107
就繁項目	塩化物給量規制	空気量測定	ロックボルトの引抜試験コアによる強度試験
熊 区	か の 名		
種 記	漫 日		
工 種	2. 現場吹付法枠工		

品質管理-59

試験成績 表等による 確認				
在				
計	当初及び土質の変化した時。		 (水路工) 延長200m毎に1回、測定箇所は増断方向に3点。 (場防工) 土量5,000 m³以上の場合は1,000m³につき1回、5,000m³未満は延長200mにつき1回、5,000m³未満は延長200mにつき1回、1,000m³未満は延長200mにつき1回、割定箇所は横断方向に3点とする。 	
規格値	設計図書による。	設・医療による。	 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	設計図書による。
試驗方法	JIS A 1210	JIS A 1202	最大松径≤53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大松径>53mm: 突砂法 (維装調査・試 験法便覧[4]-256)	JIS A 1203
計 縣 項 目	上の希固め記録	土粒子の密度試験	現場密度の測定	土の含水比討職
就 区 豫	必 演	その色	沙 敝	から 名
種 別	本	À	超 日	
工 種	22 水路	エ(インバ	―ト下の盛土) 及び堤防工	

試験成績 表等による 確認																				
構					三十つが、	▶					\\ \	*	衛	▼中心11年中心高で別に不可能な場合 で試験位置は監督員と協議する。	管基礎材の出来形が 10m3 未満、又は基	礎の延長が 20m未満の場合は密度試験	を省略できる。(管理者との協議で密度	討験を求められた場合を除く)		
試 縣 基 準	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	延長200m毎~1回。	上記未満は2回測定する。	なお、基礎的横断方向の測定箇	所は右図を標準とする。		管中心高での測定が不可能な	場合は、管側上部で実施する										
規格値	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	締固めの規定	-	締固め1 85%以上	締固めⅡ 90%以上		締固め度=	現地で締固めた後の乾燥密度、いる。	JIS A 1210 の試験方法 ~100 (70)	による最大乾燥密度	上記によらない場合は特記仕様書による。						設計図書による。	
試験方法	JIS A 1210	JIS A 1202	JIS A 1204	最大粒径≤53mm:	砂置換法 (JISA 1214)		最大粒径>53mm:	突砂法 (舗装調査・試	験法便覧[4]-256)										JIS A 1203	
試験項目	土の希面め討場	土粒子の密度試験	土の松度試験	現場密度の測定															上の含水比試験	
照 区 聚 分	必 領	4 6	包	;	爻 ↓	展													その街	
種別	\$	菜		3	超上	<u> </u>														
工 顴	23 大路	王(管水路)																		

試験成績 表等による 確認				
旛	治山工事で使用する特殊モルタル等吹付工に限る			
計 器 推	500 mlに3 箇所込上	施工本数の5% 但し、1施工単位3本以上	施工本数10本未満1本、施工本数10本以上2本	
規格値	設計基準接着強度は、 σ28=0.8N/mil(8kgf/cm)とし、許容範囲は 測定値の平均が設計基準接着強度の80%以 上とする。	設計耐力の荷重をかく目視で抜けが認められないこと。	設計両力の荷重をかけ、変位量が 10cm を超えないこと。	
試驗方法	モルタルブロック供 試体は2cm立法体 (フック金具付)	(岩部用) 軸方向引拔試験	(土砂部用) 横方向引張地験	
計 縣 項目	特殊モルタル等の接着強度	アンカー耐力討験		
試 区 験 分	⇒ 無	必 領		
種 記	a H	超 日		
工 種	53 特殊吹付工	2 ローン代	-1	

試験成績 表等による 確認											
極	監督員との協議の上で、(再)転圧を 〒うものとする。										・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。
	監督員との協議 行うものとする。										・左記の規格値を著した場合は、を提出を行う
東 署 ဴ 経	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	築場よ、1,000㎡につき1回の割合、または場体延長20㎡3回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。
規格値	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	河川上工: 最大乾燥密度90%以上。 又は設計図書に示された値。 治山土工(砂坊土工、海岸土工に類するも のを含む): 最大乾燥密度85%以上。 又は設計図書に示された値。
試験方法	JIS A 1210	JIS A 1204	JIS A 1202	JIS A 1203	JIS A 1205	JIS A 1216	地盤材料試験の方法と解説	JIS A 1217	地盤材料試験の方法と解説	JIS A1218	最大粒径≤53mm:砂雹換法(JISA1214) 最大粒径>53mm: 突砂法(舗裝調查•試 験法便覧[4]-256)
試 縣 項 目	土の新国め計算	土の約度試験	土粒子の密度試験	上の含水比試験	土の液性限・塑性限精・験	土の一軸圧縮砂酸	土の三軸圧縮減	土の圧密度試験	土のせん断計験	土の透水試験	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類) いずれかを実施する (次頁に続く)
	· 河	L	6 名								
重置	25 河 三	<u>菜</u> E H ト	H • ¾	<u> </u>	н н						福 日
工 種	2 \frac{1}{2}	. 111	· *	<u>-</u> _	-1 ()						

試験成績 表等による	確認				
華		・最大粒径<100mの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。			
		盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位ごと に管理を行うものとする。 築場は、1日の1層あたりの施 工面積を基準とする。管理単位 の面積は1,500㎡を標準とし、1 日の施工面積が2,000㎡以上の 場合、その施工面積を2管理単 位以上に分割するものとする。 1管理単位あたりの測定点数の 目安を以下に示す。 ・500㎡未満:5点 ・500㎡以上1000㎡未満:10点	1 盛土を管理する単位(以下 「管理単位」)に分類して管理 単位毎に管理を行なう。 2 1日の施工が複数層に及ぶ場 合でも1管理単位を複数層にま たがらせることはしないものと する。 3 土取り場の状況や土質状況が 変わる場合には、新規の管理単 位として取り扱うものとする。	当初及び土質の変化した時。	トラフィカビリティが悪いと き。
規格値		河川上工: 1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大 乾燥度密度の92%以上。 又は、設計図書による。 治山上工(砂坊上工、海岸土工に類するも のを含む): 1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大 乾燥度密度の90%以上。 又は、設計図書による。 又は、設計図書による。	施工区間を小分割した管理ブロックの全て が規定回数だけ締め固められたことを確認 する。	設計図書による。	設計図書による。
試験方法		又は、 「RI計器を用いた盛 土の締固め管理要領 (案)」による。	又は、 「TS・GNSSを用いた盛 土の締固め管理要領 (国土交通省)によ る。	JIS A 1203	「舗装調査・試験法 便覧」[1]-273
試 縣 項 目		現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類) いずれかを実施する		土の含水比試験	コーン指数の測定
熊 ◇	KA K	☆ 筬		4	の 知
乗 回	Э'n	居 日			
H #	重	36 河川土工・治山土工	_		

試験成績 表等による 確認											
一											
承											
権											
	2.5										
料	当初及び土質の変化した時。 (材料が岩砕の場合は除く) ただし、法面、路肩部の土量は 除く。	当初及び土質の変化した時。 (材料が岩枠の場合は除く)	した時。	した時。	した時。	した時。	した時。	した時。	した時。	した時。	した時。
秦	質の変化 20場合(1)、路肩部	質の変化いの場合	[の変化]	[の変化]	[の変化]	[の変化]	[の変化]	[の変化]	[の変化]	[の変化]	[の変化]
揺	á初及び土質の変化した時 (体料が岩砕の場合は除く) さだし、法面、路肩部の土量 於く。	4初及び土質の変化した時 (材料が岩枠の場合/払徐く)	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。
	当初及(材拠たたし深く。	当初	当初	当初	当初	当初	当初	当初	当初	当初	当初
種											
奉											
翼	い よ め	による。 る	てよる。	5 5 8	7. 2. 2.	17 %	7. 7. 7.	5 t 2 %	17 % 8	こよる。	C
	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。
	111122	1/1127	1/11127	111111111111111111111111111111111111111	ıjıızı	ıjıızı,	1]11123		ı)nızı		1)1122
試験方法	110	11	.04	202	:03	505	16	計験の フ	17	試験のフ	118
摇	JIS A 1210	JIS A 1211	JIS A 1204	JIS A 1202	JIS A 1203	JIS A 1205	JIS A 1216	地盤材料試験の方法 と解説	JIS A 1217	地盤材料試験の方法 と解説	JIS A1218
	-	-	,	,	,				,	.,	•
西				験		土の液性限界・塑性限界試験	籔	籔			
試	上の縮固め試験		記載	土粒子の密度試験	土の含水比試験	±1限界・対	土の一軸王統計域	土の三軸王縮試験	土の圧密度試験	土のせん断記簿	公式験
ifitė	土の希腊	CBR計模 (路床)	土の約度試験	土粒子の	土の含光	土の海	士の一種	土の三重	土の庄淳	土の土	土の透水試験
誠 区 縣 分	岁 筬	I	W	6 名	I	I .	<u> </u>	I	<u> </u>	I	
種 記	本 菜										
工 種	8 酒路土	Н									

器 上 器 上 器 上 器 上 器 上 器 上 器 上 器 上 に に に に に に に に に に に に に	表等による	雕製																									
14/12	. #K	櫻																									
	瞅																										
	掩																										
			回		+4		-15	<u>و</u>		Ħ																	
	標		こつき1) 重工(部の場	き1回) 重工G		瀏定し	行う。														
	華		000m³		『米澗	以上。	现付订	はにつ		n3米浦	以上。	き3孔で	判定を														
	試驗		高 合、1,	済でう。	5,000	たり3回	構造	m/(2.2)	Ţ,	1,500	こり3回	颗につ	の値で														
			路体の場合、1,000㎡につき1回	の割合で行う。	ただし、5,000m3未満の工事は、	1工事当たり3回以上。	路床及び精造物取付け部の場	合、500mlにつきにつき1回の	割合で行う。	ただし、1,500m3未満の工事は1	工事当たり3回以上。	1回の試験につき3孔で測定し、	3孔の最低値で判定を行う。														
			HA.								- 1		(1)	Ţ.	三三			لدِّ	溪	関	N						
				・路体:次の密度への締固めが可能な範囲	の含水比において、最大乾燥密度の90%以	上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法)。	・路床及び精造物取付け部:次の密度への	締固めが可能な範囲の含水比において、最	大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JISA	1210) A・B法) もしくは30%以上 (締固め				自然含水比またはトラフィカビリ	ティが確保できる含水比において、空気間	隙率Vaカシ2%≤Va≤10%または飽和度Srカシ		・路床及び構造物取付け部:トラフィカビ	リティが確保できる含水比において、空気	間隙率Vaが2%≤Va≤8%ただし、縮固め管理	が可能な場合は、砂質土の基準を適用する						
	重			目めが下	約解密	(210) A	吊:次0	A-2011	脂め幇	30%UL	· 器			まトラフ	1,1647	:\ 过 師:		73: 15	九二指	がし、 総)基準を			귀			
	夲			の雑	、最大	JIS A 1	欧小洁	囲の名	上谿	しくぼ	C • D			とまたに	40人元	10%また		软化指	る合大	≦8%1€7	婚士の		以上	7% <u>5</u> 6	12 L S.		
	羪			の密度	\$1V	試験(構造物	能才範	7%260	法も	A 1210			然合大	てきる	≤Va≦	2%	構造物	保でき	2%≦Va	合は、石	°°	/06 更	通以上	設計図書による。		
			[砂質土]	体:次0	大力に	締固め	床及び	めが可	燥密度) A • B	討験 (JIS A 1210) C・D・E注)		(米的生土)	•路体:自	が確保	Vað [§] 2%	85%≦Sr≦95%	床及び	イが編	j率Va力i	能な場	ことができる。	- 1 	I-2交通以上 95%以上			
)		0		- 器	雑屈	大軟	121(試		垩	· 器	ア	0.1%	85%	· 器	リデ	間隔	が可	ハ	I	I	その他、		
	洪		: W	砂置換法 (JISA1214)	: He	突砂法 (舗装調査・試	(993																				
	試験方法		Œ≦53n	法(JIS	孫>53n	網湖	覧[4]-5																				
	紅		最大粒径≦53mm:	砂置換	最大粒径>53mm:	突然	験法便覧[4]-256)																				
	III			3種類	R																						
	瞬項		測定	力法(実施寸																			$\widehat{\cdot}$			
	私		現場密度の測定	※右記域方法(3種類)の	いずれかを実施する																			(次頁に続く)			
	AEL	~	現場		11																			(<u>K</u> į			
-		K X		芍	魚																						
				祖	H	1 1	1 1																				
	H :	種	26	漕	絽	+1	Η																				

饋る			
試験成績 表等による	離認	S S S S S S S S S S S S S S S S S S S	
藩		 最大粒径<100mの場合に適用する。 左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 	
計 縣 基 準		盛土を管理する単位(以下「管理 単位」)に分割して管理単位ごと に管理を行うものとする。 路体・路床とも、1日の加を標 準とし、1日の施工面積が2,000 高以上の場合、その施工面積を 2管理単位以上に分割するもの とする。1管理単位あたりの測 定点数の目安を以下に示す。 ・500㎡大満:5点 ・500㎡以上2000㎡未満:10点	
規格値		「砂質土」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
試験方法		又は、 「RI計器を用いた盛 土の締固め管理要領 (案)」による。	
試 験 項目		現場密度の測定 ※右記場験方法(3種類)の レッずれかを実施する	(次頁/3続く)
減 b	K K	⇒ 無	
種	为[]	掲 H	
H #	型	% 渲 路 土 工	

試験成績 表等による 確認					
華		・荷重車については、施工時に用いた 転圧機械と同等以上の締固め効果を持 つローラやトラック等を用いるものと する。	セメントコンクリートの路盤に適用する。		
計 縣 基 準	1 盛土を管理する単位(以下「管理単位 理単位」)に分割して管理単位 毎に管理を行なう。 21日の施工が複数層に及ぶ場合 でも1管理単位を複数層にまた がらせることはしないものとす る。 3 土取り場の状況や土質状況が 変わる場合には、新規の管理単 位として取り扱うものとする。	路床仕上げ後全幅、全区間について実施する。 ただし、現道7換工事、仮設用 道路維持工事3旅く。	各車線ごとに延長40mについて 1ヶ所の割で行う。	各車線ごとに延長40mについて 1回の割で行う。	路体の場合、1,000㎡につき1回 の割合で行う。ただし、5,000㎡ 未満の工事は、1工事当たり3回 以上。 路床の場合、500㎡につき1回の 割合で行う。ただし、1,500㎡ 未満の工事は1工事当たり3回 以上。
規格値	施工区間を小分割した管理ブロックの全て が規定回数だけ締め固められたことを確認 する。	沈下状况異常なし		設計図書による。	設計図書による。
試驗方法	又は、 「TS・GNSSを用いた盛 土の締固め管理要領」 (国土交通省) による。 る。	「舗装調査・試験法 便覧」 [4] -288	JIS A 1215	JIS A 1222	JIS A 1203
就繁項目	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類) の いずれかを実施する	プルーフローリング	平板載荷試験	現場GR結織	含水比試験
関 区	⇒ 無		W (6 街	
種 記	超 日				
工種	8 道路土工				

試験成績 表等による 確認			0	0
蕭		・中規模工事:2,000㎡以上とする。 ・小規模工事:2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。		
計 暴 基 準	必要に応じて実施。 (例) トラフィカビリティが悪 いとき。 プルーフローリングでの不良 箇所について実施	・中規模以上の工事:施工前、 材料変更時 ・小規模以下の工事:施工前 当初及び土質の変化した時。 当初及び土質の変化した時。 当初及び土質の変化した時。	工事開始前、工事中1回/月以上	工事開始前、工事中1回/月以上
規格 値	設計図書による。 設計図書による。	修正CBR20%以上 路上再生便覧参照 表3.2.8路上再生路盤用骨材の望ましい 粒 度範囲による 設計図書による。 塑性指数71:9以下	8 8 8 8 8	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
試驗方法	「舗装調査・試験法 便覧」[1]-273 「舗装調査・試験法 便覧」[1]-284 (ベンゲルマンビーム)	「舗装調査・試験法 便覧」[4]-68 JIS A 1204 JIS A 1203 JIS A 1205	JIS R 5201	JIS R 5202
試 颗 項 目	コーン指数の測定たわみ量	修正CBR高代験 士の地度計職 土の含水比試験 土の含水比試験	セメントの物理試験	セメントの化学分析
試 区縣 分	か の 名	⇒ Ж	そ の 街	
種 記	超 日	大菜		
工 種	% 道路土工	22路上再生路鐵工		

試験成績 表等による 確認					
充			CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤按定処理路盤材の一軸圧縮試験を指す。		
試 鑒 基 準	・締固め度は、個々の測定値が 基準密度の93%以上を満足する ものとし、かつ平均値について 以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10個の測定値の 平均値X10が規格値を満足する ものとする。また、10個の測定 値の平均値X3が規格値を満足する するものとするが、X3が規格値 をはずれた場合は、さらに3個 のデータを加えた平均値X6が 規格値を満足していればよい。 ・1工事あたり3,000㎡を超える 場合は、10,000㎡以下を1ロッ トとし、1ロットあたり10個(10 孔)で測定する。	当初及び土質の変化した時	当初及び土質の変化した時	1~2回/日	
規格値	基準密度の93%以上。 XIO 95%以上 X3 96.5%以上	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	
試驟方法	(制装調査・試験法 (更覧) [4]-256 砂置換法(JIS A1214) 砂置換法は、最大粒 径が53m以下の場合 のみ適用できる	「維装調査・試験法 便覧」[4]-133	「舗装調査・試験法 便覧」[4]-135	JIS A 1203	
試験項目	現場密度の測定	上の一軸圧縮試験	(AEの)一動王術詩代験	含水比試験	
湖 区	☆ 無			<u> </u>	
種別	2 路 上 再 生 路 盤 工 括 工				
工 種	22 路 上 再 生 路 盤 工				

試験成績 表等による 確認	0									
蕭		試験対象とする材料は監督員と協議のうえ選定する。		最大表面粗さとは、JIS B 0601 (2013) に規定する最大高さ粗さRZとする。	ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷まで の深さを示す。					
試 駿 基 潍	現物とミルシートの整合性が確認できること。 規格、品質がミルシートで確認できること。	JIS/2.4.2								
規格値		JISによる		主要部材の最大表面粗さ 50μm以下 二次部材の最大表面粗さ 100μm以下 (ただし、切削による場合は50μm以下)	主要部材:ノッチがあってはならない。 二次部材:1mm以下	塊状のスラグが点在し、付着しているが、 痕跡を残さず容易にはく離するもの。	わずかに丸みをおびているが、滑らかな状態のもの。	設計図書による(日本溶接協会規格「ガス 切跡面の品質基準」に基づく)	設計図書による(日本溶接協会規格「ガス 切断面の品質基準」に基づく)	設計図書による(日本溶接協会規格「ガス 切断面の品質基準」に基づく)
試驗方法	現物照合、帳票、確認	JISIZŁŚ	目視及び計測	目視	・目視 ・計測	目視	目視	目視	計測器による計測	計測器による計測
就験項目	外観・規格(主部材)	機械試験(JISマーク表示品以外かつミルジート照合不可な主部対)	外観検査 (付属部材)	表面粗な	ノッチ深さ	スラゲ	上縁の溶け	平面度	~ 小精度	真直度
製 公	必 領			⇒ 溢 ៕				N	の 街	
重 図	文 菜 菜	111 1 1 2 1 20 -	D = 1	超 上		1.1				
工種	28 王磐難	作工<鋼橋田	円 麗 女 >	29 7 K	四 附	Н				

試験成績 表等による 確認	0	0	0
五海	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」LJ銅橋・銅部材編20.8.4容接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そのときの試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	・溶接力法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」 II 銅橋・鋼部材編20.8.4容接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そのときの試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」 L銅橋・鋼部材編20.8.4容接施工法 図-20.8.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そのときの試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。
試 籔 基 準	討験片の形状:JIS Z 3121 1号 討験片の個数:2	討験片の形状:JIS Z 3122 討験片の個数:2	試験片の形状:JIS 2 2242 Vノッチ 試験片の採取位置:「日本道路 協会道路橋示方書・同解説」II 鋼橋・鋼部材編20.8.4溶接施工 法 図-20.8.2衝撃試験片 試験片の個数:各部位につき3
規格値	引展強きが母材の規格値以上。	亀裂が生じてはならない。 ただし、亀裂の発生原因がブローホールあるいはスラグ巻き込みであることが確認され、カン、亀裂の長さが3mm以下の場合は許容するものとする。	浴着金属及び浴接熱影響部で母材の要求値 以上 (それぞれの3個の平均値)
試驗方法	JIS Z 2241	JIS Z 3122	JIS Z 2242
試 颗 項 目	引 原达 :開先溶接	型曲げ試験(19mm未満裏曲げ)(19mm以上側曲げ):開先溶接	<u> </u>
器 公	⇒ 産		
種 尼	超 日		
工 種	8 溶 漿 H		

1	(次頁)乙続く)
同左	
計 験 方 法	
計 験 項 目 マクロ試験:開先溶接 開先溶接 開先溶接 開先溶接 開先溶接	
※ ② ② 徑	
工	

試験成績 表等による 確認	0	0	0	0		
蕭	・超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル3の資格とする。 ・手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル2 以上の資格とする。	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」LJ釧橋・鋼部内編20.8.4容接施工法 図-20.8.3寸み肉溶接試験 (マクロ試験) 溶接方法及び常識片の形状による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そのときの試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で容接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そのときの試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そのときの試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。		
試 縣 甚 準		試験片の形状: 「日本道路協会 道路橋示方書・同解説」L釧橋・ 鋼部材編20.8.4溶接施工法 図 -20.8.3寸み肉溶接試験 (マクロ 試験) 溶接方法及び試験片の形 状	討職片の形状:JIS B 1198 討職片の個数:3	討験片の形状:JIS Z 3145 討験片の個数:3		
規格値		久陥があって付まらない。	降伏点は 235V/m²以上、引現強さは 400~550V/mm、伸び420%以上とする。 ただし溶接で切れてはいけない。	冷铵 肌C 亀 裂を生じてはならない。		
試驗方法		JIS G 0553 に準じる。	JIS Z 2241	JIS Z 3145		
試 縣 項 目	非 岐處試験 :開先溶接	マクロ試験:すみ内容接	引張場(スタット浴接	曲げ試験:スタッド溶接		
熊 公	☆ 紙					
種 尼	超 日					
工 種	8 游 報 日					

試験成績 表等による 確認	0		
描	・「日本道路協会道路橋示方書・同解説 II鋼橋・鋼部防編 表 解20.8.6及び 表 解20.8.7に名継手の強度等級を満た す上での内部きず寸法の許容値が示さ れている。なお、表 解20.8.6及び表 解 20.8.7に示されていない強度等級を低 減させた場合などの継手の内部きず寸 法の許容値は、「日本道路協会道路橋示 方書・同解説 II鋼橋・鋼部防編 8.3.2 継手の強度等級と示されている。 (非破壊討験を行う場合は、放射線 透過試験におけるレベル2以上の資格と する。 ・超音波目動採傷試験を行う場合は、超 音波探傷試験におけるレベル2以上の資格と する。 ・程音波探傷試験におけるレベル2以上の資格と する。 ・程音波探傷試験におけるレベル2以上の資格と する。 ・程音波探傷試験におけるレベル2以上の資格と する。 ・程音波探傷試験におけるレベル2以上の資格と する。 ・程音波探傷試験におけるレベル2の資格と する。 ・手探傷による超音波探傷試験を行う場 合は、超音波探傷試験におけるレベル2 以上の資格とする。	磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応したJISZ 2305 (財破壊試験・技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。	
試 鑒 基 準	放射線透過試験の場合はJIS Z 3104による。 超音波探傷試験 (手探傷) の場合はJIS Z 3060による。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。目視は全延長実施する。ただし、判定が困難な場合は、磁約探傷試験または浸透機等	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。
規格値	試験で検出されたきず寸法は、設計上許容される寸法以下でなければならない。 ただし、寸法によらず表面に開口した割れ 等の面状きずはあってはならない。 なお、放射線透晶が識による場合において、 板厚が5mm以下の試験の結果については、 以下を満たす場合には合格としてよい。 ・引張応力を受ける溶接部は、JIS Z3104 附属書4(透過写真によるきずの像の分類方 法)に示す2類以上とする。 ・圧縮応力を受ける溶接部は、JIS Z3104 附属書4(透過写真によるきずの像の分類方 は)に示す3類以上とする。 なお、板厚が25mmを超える場合は、内部き なお、板厚が25mmを超える場合は、内部き ず寸法の前容値を板厚の1/3とする。 ただし、疲労の影響が考えられる継手では、 所定の強度等級を満たす上で評容できるき ず寸法はこの値より小さい場合があるので 注意する。	あってはならない。	断面に考慮する突合せ溶接継手、十字容接手、工溶接継手、工溶接継手、角溶接継手には、ビード表面にピットがあってはならない。その他のすみ肉溶接及び部分溶込み開先溶接には、1継手につき3個または継手長さ1mにつき3個までを許容する。ただし、ピットの大きさが1mm以下の場合は、3個を1個として計算する。
試験方法	JIS Z 3104 JIS Z 3060	・目視	・目視及びノギス等に よる計測
計 縣 垣 目	安合せ溶液継手の内部欠陥に 対する検査	外観検査(割い)	外観形状検査 (ビード表面のピット)
誤 区分	汐		
種別	基 日		
工 種	8		

試験成績 表等による 確認					
旛		「日本道路協会道路橋示方書・同解説」 II鋼橋・鋼部材編 表 解20.8.4及び表 解20.8.5 に各継手の強度等級を満たす うえでのアンダーカットの許容値が示 されている。表-解20.8.4及び表-解 20.8.5に示されていない継手のアンダ 一カットの許容値は、「日本道路協会道 路橋示方書・同解説」II鋼橋・鋼部材編 8.3.2継手の強度等級に示されている。			
計 暴 駐 灌			検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。
規格 値	ビート表面の凹凸は、ビート長な25mmの絶 囲で3mm以下。	「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 御橋・銅部材編20.8.6外部きず検査の規定 による	あってはならない。	すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ肉サイズ及びのど厚を下回ってはならない。 い。 ただし、1溶接線の両端各50mを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに一1.0mの誤差を認める。	設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定のない開先容 接は、以下に示す範囲内の余盛りは仕上げ なくてよい。余盛高さが以下に示す値を超 える場合は、ビード形状、特に止端部を滑 らかで仕上げるものとする。 ビート幅([m])余盛高さ(h[m]) 8/15 : h≤3 15≦8/25 : h≤4 25≦B : h≤ (4/25)・B
試驗方法	目視及びノギス等による計測	・自視及びノギス等による計測	・目視	・目視及びノギス等による計測	・自視及びノギス等による計測
計 縣 項 目	外観形状検査 (ビート表面の不整凹凸)	外観形状検査 (アンダーカット)	外観検査(オーバーラップ)	外側形状検査(すみ肉溶接サイズ)	外観形状検査(余盛高さ)
誠 区 験 分	浏			1	
重 記	超	Н			
工 種	30 媣	掖 H			

	T	
試験成績 表等による 確認		
摘要		・余盛が包囲していないスタッドジベルは、その方向と反対の15 の角度まで曲げるものとする。 ・15 曲げても欠陥の生じないものは、元に戻すことなく、曲げたままにしておくものとする。
計 繁 基 準	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルについて全数。外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から1%について抜取り曲げ検査を行うものとする。
規格 値	・余盛りの形状の不整:余盛りは全間にわたり包囲していなければならない。なお、余盛りは高さ1m、幅0.5m以上。 ・割れ及びスラグ巻込み:あってはならない。 い。 ・アンダーカット:鋭い切欠状のアンダーカットがあってはならない。ただし、グラインダー仕上げ量が、5m以内に納まるものは仕上げで合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ:(誤計値 +2m)をこえてはならない。	割比等の欠陥を生じないものを合格。
試驗方法	・目視及びノギス等に よる計測	響
計	外観形状検査 (アークスタッド) ド)	登録
瀬 区 後	☆ 微	か
種別	超 日	
工 種	08 筱 掇 H	

試験成績 表等による 確認	0													()	
摘				※規格値こついては生産地によりばら つきがあり、これにより支障が生じる場合には監督員との協議により決定する。												
試 颗 基 準	各採取地毎		樹種別、規格別に各設計数量の	10%を計測する。		樹種別、規格別に各設計数量の	10%を計測する。	樹種別、規格別に各設計数量の	10%を計測する。		設計数量の1%を計測する。					
規格 値	4.5~8.0	0.1∼1.0mS/cm	設計値≤H	設計値≦C<上位階級の寸法値	設計/値≤W	設計値≤H<上位階級の寸法値	設計√直≤₩	設計値≤H	設計値≤C<上位階級の寸法値	設}州直≤W	設計値三し	設計値≦芽立数				
試験方法	簡易pl语十	電気伝導度 (ECメーター)	計測用具による計測	計測用具による計測		計画	順相のよる計画	計測用具による計測	計測用具による計測	計測用具による計測	計測用具による計測	目視	JIS A 9002		JAS	JAS
試験項目	рн (ЦСО)	有害物質	画な (H)	幹周 (C)	枝張 (W)	高さ (H)	枝張 (W)	画な (H)	幹周 (C)	校張又は尺(W)	茎長 (L)	芽立	木材の加圧式保存処理法	木材の浸漬式防腐処理方法	台 水率	保存処理剤浸度試験
瀬 区	N	の包	苅		浭	X	· 例			뗐		必 須	苅	無		
種 記	 		1		菜		本 菜			<u></u>		本本	3 4	<u>*</u>		
工種	31	客 土	32	喠	+	33	中低木	34	华	殊樹木	35	地 被 類	36 *	\$		

試験成績 表等による 確認				
諸 万 大等 大等				山中式上類便度計で測定する場合は、高さは50 cm毎を標準とする。 長谷川式土壌貫入計で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。 規格値以下であってもすべてを固結層 と判断するのではなく、樹種によって次のように固結層と判断する。 (1)クロマツ以外の樹種(クロマツとの混植を含む) 0.7cm/drop以下が5cm以上、あるいは1.0cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合
試 颗 基 準	当初及び土質の変化時に1回。		原則として、盛土の完了時に行う。 測定は、2,500 ㎡につき1地点で行う。 施工状況等により必要に応じて討範回数を増減する。	子匠
規格値	砂質度 (S:砂土、SG:礫質砂、SF: 細粒土まじり砂) に区分されるもの。	4. 0∼8. 0pH	最終減水能 30 mm/hr 以上	山中式土壌関大計:1.0 cm/drop以上長谷川式土壌関入計:1.0 cm/drop以上
試驗方法	JIS A 1204	JGS-0211 { 2準拠 (地盤工学会基準)	植穴式透水試験又は長谷川式透水試験	
試験項目	上の松度試験	土⁄藥pH	透水計變	上 鎮 頑度記錄
対 区	芍	無		☆ 〜
重 园	*	菜	424 11 11	점 儿
工 種	37 年	羅羅	猫 土 H	

試験成績 表等による 確認	0					
蕭		定着材をセメントミルクまたはモルタ ルとする場合、監督員が1回以上確認す るものとする。		定着材をセメントミルクまたはモルタ ルとする場合、監督員が1回以上確認す るものとする。	監督員が2本以上確認するものとする。	監督員が2本以上確認するものとする。
試 颗 甚 準	材料入御寺	施工開始前1回および定着材の 材料や配合変更時に実施。 1回の試験は測定を2回行い、 測定値の平均値をフロー値とする。	材料入荷時:全数 (100 本を超えたときは、100 本 毎に30 本を確認)	施工開始前1回および施工日ご と1回(3本/回)	・施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。・載荷サイクルは1サイクルとする。する。	 ・地層ごとに3本以上を標準とする。 ・載荷サイクルは多サイクルを原則とする。 ・初期荷重は、5.0kNもしくは計画最大荷重の0.1倍程度とする。
規格 値	設計図書による。	9~22秒	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。
試驗方法	イージンパ	JSCE-F 521-2018	・目視 ・寸注計測	JIS A 1108	地山補強土工法設計・施工マニュアル	地山補強土工法設計・施工マニュアル
試 驟 項 目	品質検査 (芯材・ナット・プレート等)	定着材のフロー値試験	外御検査 (芯材・ナット・プレート等)	压縮強度試験	引抜試験 (受入れ試験)	適合性試験
點 区	必須		その他	必 領	必 演	その街
種 別	本本				超日	
工 種	88 数 \$	胁 挿 入 工				

試験成績 表等による 確認					
蕭	配合を定めるための記職である。			 実施頻度は、監督職員との協議による。 ボーリング等により供試体を採取する。 	実施頻度は、監督職員との協議による。
試 繁 基 準	当初及び土質の変化したとき。	土質の変化したとき必要に応じて実施す	有機質土の場合は必要に応じて実施する	1,000m3~4,000m3につき1回の割合で行う。 試料採取器またはボーリングコアで採取された改良体上、中、下において連続されて 改良されていることをフェノールフタレイ ン反応試験により均質性を目視確認する。 現場の条件、規模等により上記によりがた い場合は監督員の指示による。	1,000m3~4,000m3につき1回の割合で行う。 試験に致良体について上、中、下それぞれ1 供試体で1回とする。 現場の条件、規模等により上記によりがた い場合は監督員の指示による。
規格値	設計図書による。	設計図書による。		採取した試料のフェノールフタレイン反 ン反 応試験による均質性の目視確認	①各供試体の試験結果は改良地鑑設 計強 度の88%以上。 ②1回の試験結果は改良地鑑設計強度 以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の 試験値の平均値で表したもの
試験方法	JIS A 1203 JIS A 1225 JIS R 5201 JIS A 1216	JIS A 1202 JIS A 1204 JIS A 1205 JIS A 1216 JIS A 1217	JGS 0211 JGS 0221	試料採取器または ボーリングコアの目 視確認	JIS A 1216
試 勝 垣 目	上の含水比試験 上の温潤密度試験 デーブルフロー試験 上の一軸圧縮試験 (改良体の強度)	士が子の密度試験 上の松度試験 上の液性限界・塑性限界試験 上の一軸圧縮試験 上の圧密試験	士账獨校のpH計機 士強約成量計験	深度方向の品質確認 (均質性)	土の一軸圧縮試験(改良体の強度)
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	か の 街		☆ 無	
種別	菜菜	mil mil		掲 H	
工種	83 中層混合処				

試験成績 表等による 確認				
を開発を開発している。		左記の規格値を満たしていても、 規格値を著しく下回っている点が 存在した場合は、監督員との協議 の上で、(再)転圧を行うものと する。	 最大地径く100mm の場合に適用する。 た記の規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 	
計 縣 基 準	当初及び土質の変化したとき。	1000㎡につき1回の割合で行なう。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	盛士を管理する単位 (以下「管理単位」) に分割して管理単位ごとに管理を行うもの とする。築場は、1日の1層当たりの施工面 積を基準とする。 管理単位の面積が2,000m3 以上の場合、その 施工面積が2,000m3 以上の場合、その 施工面積が2,000m3 以上の場合、その をする。1 管理単位以上に分割するもの とする。1 管理単位当たりの測定点数の目 安を以下に示す。 ・500m2 未満:5 点 ・500m2 以上1,000m3 未満:10 点	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」) に分割して管理単位ごとに管理を行う。 2. 1 日の施工が複数層に及ぶ場合でも1 管理単位を複数層にまたがらせることは しないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場 合には、新規の管理単位として取り扱うも のとする。
規格値	設計図書による。	最大乾燥密度の85%以上。又は、設計区書に示された値。	1 管理単位の現場的操密度の平均値 が最大的與度密度の30%以 上。又は、設計図書による。	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが測定回数だけ締め固められたことを確認する。
試驗方法	JIS A 1210	最大粒径≤53mm: 砂置換法(JISA1214) 最大粒径>53mm: 突砂法(舗装調査・試 験法便覧[4]-256)	又は、RI 計器を用いた盛士の籍国め管理要領(案)	又は、「IS・CNSSを 用いた盛士の締固め 管理要領」
計 縣 項 目	土の補固め討験	現場密度の測定	※右記場の後 いずれかを実施する。	
試験 区分	が後	沙 無		
難 記	世立	福 日		
工 種	押 え	盛 出 日		

写真管理基準

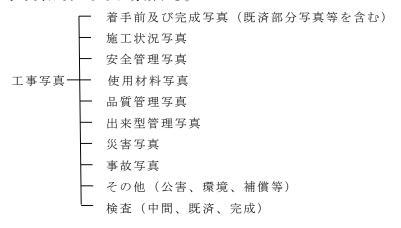
写真管理基準

1. 適用範囲

この写真管理基準は、農林土木工事施工管理基準に定める農林土木工事の工事写真による管理(デジタルカメラを使用した撮影〜提出)に適用する。また、写真を映像と読み替えることも可とする。

2. 工事写真の分類

工事写真は次のように分類する。



3. 撮影

(1)撮影頻度

工事写真は、撮影箇所一覧表に示す「撮影頻度」に基づき撮影するものとする。

(2)撮影方法

写真撮影にあたっては、以下の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写し込むものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 撮影日
- ④ 測点(位置)
- ⑤ 設計寸法
- ⑥ 実測寸法
- (7) 略図

小黒板の判読が困難となる場合は、「デジタル写真管理情報基準」に規定する写真情報(写真管理項目-施工管理値)に必要事項を記入し整理するものとする。

また、特殊な場合で監督員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

「TSを用いた出来形管理要領(土工編)」(平成 24 年 3 月 29 日付け国官技第 347 号、国総公第 85 号)による出来形管理を行った場合には、出来形管理写真の撮影頻度及び撮影方法は同要領の規定による。

4. 写真の省略

工事写真は以下の場合に省略するものとする。

(1)品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を

省略するものとする。

- (2)出来型管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を工種ごとに1回撮影し、後は撮影を省略するものとする。
- (3)監督員又は現場技術員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略するものとする。

5. 写真の編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。ただし、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」に基づく小黒板情報の電子的記入は、これに当らない。

6. 写真の仕様

写真の色彩やサイズは以下のとおりとする。

- (1) 写真はカラーとする。
- (2) 有効画素数は小黒板の文字が判読できることを指標とする。縦横比は 3:4 程度とする。 (100 万画素程度~300 万画素程度=1,200×900 程度~2,000×1,500 程度)

7. 撮影の留意事項

撮影箇所一覧表の適用について、以下を留意するものとする。

- (1)「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督員の指示により追加、削減するものとする。
- (2)施工状況等の写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。
- (3)不可視となる出来形部分については、出来形寸法(上墨寸法含む)が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。
- (4) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図(撮影位置図、平面図、凡例図、 構造図など)を参考図として作成する。
- (5) 撮影箇所一覧表に記載のない工種については監督員と写真管理項目を協議のうえ取り扱いを定めるものとする。

8. 整理提出

撮影箇所一覧表の「撮影頻度」に基づいて撮影した写真原本を電子媒体に格納し、監督員に提出 するものとする。

写真ファイルの整理及び電子媒体への格納方法(各種仕様)は「デジタル写真管理情報基準」に 基づくものとする。

(デジタル写真管理情報基準の写真管理項目にある「提出頻度写真」とは撮影箇所一覧表の「整理条件」に該当する写真をいう)

完成検査時に撮影した写真は、検査終了後に写真帳に整理して提出するものとする。

9. その他

撮影箇所一覧表の用語の定義

- (1)適宜とは、設計図書の仕様が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。
- (2)フィルムカメラを使用した撮影〜提出とする場合は、監督員と提出頻度を協議のうえ、取扱いを定めるものとする。

撮影箇所一覧表

区分	工種		写 真 管 理 項 目		摘要	
区分	上 性	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	- 摘 要	
着手前・完成	着 手 前	全景又は代表部 分写真	着手前1回〔着手前〕	着手前1枚		
有ナ削・元成	完成	全景又は代表部 分写真	施工完了後1回〔完成後〕	施工完了後1枚		
		全景又は代表部 分の工事進捗状 況		不要		
	工事施工中	施工中の写真	工種、種別毎に施工計画書に従 い施工していることが確認でき るように適宜 [施工中]			
施工状況写真			技術提案・創意工夫・社会性等 に関する実施状況が確認できる ように適宜 〔施工中〕		技術提案・ 創意工夫・ 社会性等に 関する提出 状況の提出 書類に添付	
	仮設(指定仮設)	使用材料、仮設状 況、形状寸法	1施工箇所に1回〔施工前後〕	代表箇所1枚		
	図面との不一致	図面と現地との 不一致の写真	必要に応じて〔発生時〕	不要	工事打合簿 に添付する	
		各種標識類の設 置状況	各種類毎に1回〔設置後〕	不要		
<i>c</i> → <i>∧ /c/c</i> +rm		各種保安施設の 設置状況	各種類毎に1回〔設置後〕	不要		
安全管理		監視員交通整理 状況	各1回〔作業中〕	不要		
		安全訓練等の実 施状況	実施毎に1回〔実施中〕	不要	実施状況資 料に添付す る	
		形状寸法	各品目毎に1回〔使用前〕	各1枚	品質証明に 添付する	
使用材料	使用材料	品質証明 (JISマーク表示)	各品目毎に1回			
		検査実施状況	各品目毎に1回〔検査時〕	各1枚		

E //	T #		写 真 管 理 項 目				
区 分	工種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	- 摘 要		
		別添 品質管理					
品質管理写真		不可視部分の 施工					
		別添 出来形管	理写真撮影箇所一覧表に準じて抗	最影			
出来形管理写真		不可視部分の 施工	適宜				
		出来形管理基準 が定められてい ない	監督員と協議事項	適宜			
災害	被災状況	被災状況及び被 災規模等	その都度〔被災前〕 〔被災直後〕 〔被災後〕	適宜			
事故	事故報告	事故の状況	その都度〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	適宜	発生前は付 近の写真で も可		
	補償関係	被害又は損害状 況	その都度〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	適宜			
補償関係他	環境対策 イメージアップ等	各施設設置状況	各種毎1回〔設置後〕	適宜			
	中間検査	完成後明視でき ない部分及び重 要構造物の施工 状況	その都度〔検査時〕	適宜			
検査	既済部分検査	工事の既済部分	その都度〔検査時〕	適宜			
	完成検査	工事の完成状況	その都度〔検査時〕	適宜			

出来形管理写真撮影箇所一覧表

※撮影頻度の()は測点間隔 25m の場合

				ماحا		写	真管理項目			
編	章	節	条	枝番	工 種		•	#4-7E & //	摘	要
				畓	I and the second second	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件		
1	2	3	2		掘削工(切土工)	土質等の判別	地質が変わる毎に1回	代表箇所		
共通	土工	河川					〔掘削中〕	各1枚		
編)' •				法長	40m (50m) 又は1施工			
///1113		治					箇所に1回			
		山					〔掘削後〕			
		土								
		エ								
1	2	3	3		盛土工	巻出し厚	40m(50m)に1回	代表箇所		
共	土						〔巻出し時〕	各1枚		
通	工	Ш				締固め状況	転圧機械又は地質が変			
編		•				W-14 ET 42 - 1/4 D F	わる毎に1回			
		治					〔締固め時〕			
		山上				法長	40m (50m) 又は1施工			
		土工				幅	箇所に1回			
						17田	[施工後]			
							[旭工汉]			
1	2	3	4		盛土補強工	厚さ	40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
共	土	河	4		(補強土 (テール	子で	箇所に1回	各1枚		
通	工	. ,			アルメ)壁工法)			台工权		
編							〔掘削後〕			
		治			(多数アンカー式					
		Щ			補強土工法)					
		土:			(ジオテキスタイ					
		工			ルを用いた補強土					
1	0	0	-		工法)	// /	10 (50) 733 447	/\ -t \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
1 共	2	3 河	5		法面整形工	仕上げ状況	40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
通	エ	JII				厚さ	箇所に1回	各1枚		
編		•					〔仕上げ時〕			
7,110		治								
		Щ								
		土								
		工								
	2		6		堤防天端工	厚さ		代表箇所		
共	土					幅	〔施工後〕	各1枚		
通短	工	Ш								
編		· 治								
		山								
		土								
		工								
								1		

	勿	2 55	松	々	枝			衽			真管理	里 項	目		松	ਜ ਜ•
当日 注	が用	·	即		番					撮影項目	撮影頻度	[[時期]	整理条件	11街	要
T	共	土	道	2		掘	削	J	工			〔掘削	中]			
共工工			エ								箇所に1回	〔掘削	後]			
本工	共	土	道									〔巻出し	.時]			
幅 簡所に1回 (掘削後) (根割後) (根割後) (根表箇所	編									神 回 Ø 4人化	わる毎に1	回				
1 2 4 1 道路																
編	共	土	道	5		法	面整	形	工			又は1				
大田 1 回 (重要構造物かつ主鉄 第について適用)		工	土工									〔仕上げ 	"時〕			
(単数件のでのでのでは) (単数件のでのでのでは) (単数件のでのでのでは) (単数件のでのでのでは) (単数件のでのでのでのでのでのでは) (単数件のでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでので	共	無	鉄	4		組	7		て	平均間隔	1回					
1回 (重要構造物かつ主鉄 筋について適用) 2		· 鉄	/1/3							かぶり	筋について	適用)				
3 1 3 4		コン								7, 200	1回					
土 一		Ì									筋について	適用)				
T 施 内 T T T T T T T T T	土	_	共	4		[‡	旨定仮言	設・台		根入長						
通編 (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (広幅鋼矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板) 数量 (打込後] 3 1 3 5	工事	施	的 工			(鋼 矢	板		変位		又は1				
3 1 3 5	通		俚			(=	ュンクリ 広 幅 鋼	ート矢 矢 板	·板) 〔)	数量		〔打込				
土 一 共 加 (縁石・アスカー ブ) (縁石・アスカー ブ) 工 施 的 事 工 工 担 通 編 小 型 標 識 工 基礎幅 基礎高さ 根入長 3 1 3 上 一 共 水 頒 施 的 事 工 工 担 通 本		1	0							111-4-> " >	在印台、		.後〕			
事工工工 共通 編 「か型標識工基礎幅 土 一 共 木 般 通 工 施 的 事工工 共 通 基礎高さ 根入長 基礎高さ 根入長 「施工後」	土木	一般	共通	5		(糸				出来はえ	種別毎に1		[後]	一 个要		
編	事共		エ													
3 1 3 6																
工 施 的 事 工 工 共 種 通	土	_	共	6		小	型標	識	エ	基礎高さ				不要		
通	工事	施	的							根入長		〔施工	〔後〕			
			種													

				枝		写	真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	7		防 止 柵 エ (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	※基礎幅 ※基礎高さ パイプ取付高	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分が ある場合) 〔施工後〕 1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		
3 土木工事共通編	1一般施工	3 共通的工種	8	1	路 側 防 護 柵 エ (ガードレール)	※基礎幅※基礎高さ※配筋状況ビーム取付高	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分が ある場合) 〔施工後〕 1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	8	2	路 側 防 護 柵 エ (ガードケーブル)	※基礎幅※基礎高さ※配筋状況ケーブル取付高	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分が ある場合) 〔施工後〕 1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	9		区 画 線 工	材料使用量出来ばえ	全数量 [施工前後] 施工日に1回 [施工前後]	不要		
3 土 木	1 一般施工	3 共通的工種	10		道 路 付 属 物 工 (視線誘導標) (距 離 標)	高さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	11		コンクリート面塗装工	材料使用量 (塗料缶) ケレン状況 (塗替) 塗装状況	全数量 〔使用前後〕 スパン毎、部材別 〔施工前後〕 各層毎に1回 〔塗装後〕	代表箇所 各1枚		

		***	4-	枝		写	真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	12	1	プレテンション桁 製作工(購入工) (け た 橋)	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1一般施工	3 共通的工種	12	2	プレテンション桁 製作工(購入工) (ス ラ ブ 桁)	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	13		ポストテンション 桁製作工	シース、PC 鋼材 配置状況 幅(上) 幅(下) 高さ 中詰め及びグラ ウト状況	桁毎に1回 〔打設前〕 桁毎に1回 〔型枠取外後〕 1スパンに1回 〔施工時〕	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	14	1	プレキャストセグ メント製作工 (購 入 工)	断面の外形寸法	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚		
3 土	1 一般施工		15		PCホロースラブ 製作工	シース、PC 鋼材 配置状況 幅 厚さ 中詰め及びグラ ウト状況	桁毎に1回 〔打設前〕 桁毎に1回 〔型枠取外後〕 1スパンに1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	16	1	PC箱桁製作工	シース、PC 鋼材 配置状況 幅(上) 幅(下) 高さ 内空幅 内空高さ 中詰め及びグラ ウト状況	桁毎に1回 〔打設前〕 桁毎に1回 〔型枠取外し後〕 桁毎に1回 〔型枠設置後〕 1スパンに1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		

				ماسا		72	古然细巧口			
編	章	節	条	枝番	工 種	<u>写</u> 撮影項目	真 管 理 項 目 撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3	1	3	16	2	PC押出し箱桁製作工	シース、PC 鋼材	桁毎に1回	代表箇所		
土	_	共				配置状況	〔打設前〕	各1枚		
木	般					幅(上)	桁毎に1回	п - р		
工事	施工	的 工				幅(下)	〔型枠取外し後〕			
井	土	種				高さ				
通		1				内空幅	桁毎に1回			
編						内空高さ	〔型枠設置後〕			
						中詰め及びグラ	1スパンに1回			
3	1	3	18	1	伸縮装置工	ウト状況 設置状況	〔施工後〕 1 スパンに 1 回	代表箇所		
土		共	10	1	(コームショイント)	双	[取付後]	各1枚		
木	般						(4文1771交)	7111		
工	施工									
事共	工	工種								
通		12								
編					77 75 VI. 111					
3	1	3	18	2	伸縮装置工	設置状況	1スパンに1回	代表箇所		
土木	般	共通			(鋼製フィンガージョイント)		〔取付後〕	各1枚		
エ	施									
事	工.	工.								
共通		種								
編										
3	1	3	19	1	多自然型護岸工	胴込裏込厚	120m又は1施工箇所	代表箇所		
土	一般	共通			(巨石張り、巨石		に1回	各1枚		
木工	施施	的			積み)	71.6	〔施工中〕			
事	I.	工				法長	200m又は1施工箇所			
共		種					に1回 〔施工後〕			
通編							(加區工工)交丁			
3	1	3	19	2	多自然型護岸工	高さ	200m又は1施工箇所	代表箇所		
土		共			(かごマット)	法長	に1回	各1枚		
木工	般施						〔施工後〕			
事	 工	T.								
共		種								
通										
編3	1	3	20		プレキャストカルバートエ	据	40m (50m) 又は1施	代表箇所		
土		共	-0		プレキャストガルハートユ (プレキャストボックスエ)	ルロ T-1 4/(-1/)じ	工箇所に1回	各1枚		
木	般	通			(プレキャストパイプエ)		エ <u>画がです</u> 〔施工中〕	1 1 1/A		
工事	施工	的工				※幅	40m (50m) 又は1施			
サ共	工	種				※高さ	工箇所に1回			
通							〔埋戻し前〕			
編							※印は場所打ちのある			
							場合)			

∜ ≓	-1/- :	F.F.	Ø	枝	工 辞	写	真管理項目		₩; Ш
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3 土木工事共通編	1一般施工	3 共通的工種	21		側 溝 エ (プレキャストU型側溝エ)エ (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝工) (管 渠 エ)	据付状況	40m (50m) 又は1施 工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要	
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	22		現場打水路工	厚 幅 高 さ	40m(50m)又は1施 工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	不要	
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	22	1	暗渠工	幅深さ	40m(50m)又は1施 工箇所に1回 〔埋戻し前〕	各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	3 共通的工種	22	2	集 水 桝 工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	各1枚	
3 土 木	1 一般施工	3 共通的工種	23		現 場 塗 装 工	材料使用量 (塗装缶) ケレン状況 (塗替) 塗装状況	全数量 〔使用前後〕 スパン毎・部材別 〔施工前後〕 各層毎1スパンに1回 〔塗装後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 厚さ 延長	40m (50m) 又は1施 工箇所に1回 〔施工後〕	不要	
3 土木工事共通編	1 一般施工		ສ	1	基礎工護岸(現場打)	幅高さ	40m(50m)又は1施 工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	

		***		枝		写	真管理項目		
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘 要
3 土木工事共	1一般施工	4 基礎工	3	2	基 礎 工 護 岸 (プレキャスト)	据付状況	40m (50m) 又は1施 工箇所に1回 [施工後]	代表箇所 各 1 枚	
通編3土木工事共通編	1一般施工	4 基礎工	4		既 製 杭 エ (既製コンクリート杭) (鋼 管 杭) (H 鋼 杭)	偏心量 根入長 数量 杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔打込後〕 1施工箇所に1回 〔打込前〕 全数量 〔打込後〕 1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕	代表箇所 各 1 枚	
3 土木工事共通編	1一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	根入長 偏心量 数量、杭径 杭頭処理状況 鉄筋組立状況	1施工箇所に1回 [施工中] 1施工箇所に1回 [打込後] 全数量 杭頭余盛部 の撤去前、杭頭処理後 [打込後] 1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕 1施工箇所に1回 〔組立後]	代表箇所 各 1 枚	
3 土木工事共通編	1一般施工	4 基礎工	6		深。礎、工	根入長 偏心量 数量、基礎径 ライナープレー ト設置状況 土質 鉄筋組立状況	全数量 [掘削後] 全数量 [施工後] 1施工箇所に1回 [掘削後] 土質の変わる毎に1回 [掘削中] 全数量 [組立後]	代表箇所 各 1 枚	
3 土木工事共通編	1一般施工	4 基礎工	7		オープンケーソン基礎工	沓ケーソンの長さケーソンの高さケーソンの整厚偏い方偏い方大川大川村鎖コンクリート打設状況中埋状況	1基に1回 [据付後] 1ロットに1回 [設置後及び型枠取外 し後] 1基に1回 [載荷時] 1基に1回 [施工時]	全枚数	

				枝		写	真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 ±	1	4 基	8		ニューマチックケー ソン基礎工	沓	1 基に 1 回 [据付後]	全枚数		
木工事共	般施工	礎工				ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ	1ロットに1回 〔設置後及び型枠取外 し後〕			
通編						ケーソンの壁厚 偏心量				
						鉄筋組立状況 載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕			
						封鎖コンクリート 打設状況	1基に1回 〔施工時〕			
						中埋状況				
3 土 木	1 一 般	4 基 礎	9		鋼管矢板基礎工	沓	1 基に 1 回 [据付後]	全枚数		
小工事共	施工	延工				根入長 偏心量 鉄筋組立状況	1基に1回 〔設置後〕			
八通 編						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕			
						封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕			
3 土 木	1 一般	5 石・、	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張)	厚さ (裏込)	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
工事共通編	施工	ブロック積張			緑化ブロックエ 石積(張)工	法長 厚さ (ブロック積・張) (石積・張) 法勾配	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は 40m に1回			
3 土 木	1 一般	工 5 石·	3	2	コンクリートブロックエ (連節ブロック張り)	法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回	代表箇所 各1枚		
· 工事共通	施工	ブロック					〔施工後〕 ただし、根入部は40m に1回			
編		積張工								
3 土木工事	1 一般施工	5 石・ブ	3	3	コンクリートブロックエ (天端保護ブロック)	·····································	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
事共通編	工	ロック積点								
		張工								

編	章	節	条	枝	 工 種	写	真管理項目		摘要
	-4-			番		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	加女
3 土	1	6	7	1	アスファルト舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
木	般	般			(1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	整正状況	各層毎 200m に 1 回		
工事	施工	舗装				走业状况	〔整正後〕		
共		I				厚さ	各層毎 1,000 m ² に1回		
通							〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m (50m) に 1回		
							〔整正後〕		
3	1	6	7	2	アスファルト舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土	一 前几	一 前几			(上層路盤工)	転圧状況	〔施工中〕	各1枚	
木工	般施	般舗			粒度調整路盤工	整正状況	各層毎 200m に 1 回		
事	工.	装				厚さ	[整正後]	1	
共通		工				序さ	各層毎 1,000 ㎡に 1 回 〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m (50m) に		
							1回		
			_		2 Abylia	AV II > - C	〔整正後〕	the testament	
3 土	1	6 —	7	3	アスファルト舗装工 (上 層 路 盤 工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
木	般	般			セメント(石灰)安	整正状況	福工中 各層毎 200m に 1 回		
工事	施工	舗装			定処理工	走工机机	〔整正後〕		
井	工	表工				※厚さ	各層毎 1,000 ㎡に1回		
通							〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m (50m) に		
							1 回 〔整正後〕		
3	1	6	7	4	アスファルト舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土土	— éл.	фЛ			(加熱アスファルト	転圧状況	[施工中]	各1枚	
木工	般施	般舗			安定処理工)	整正状況	各層毎 200m に 1 回		
事	エ	装				1.2	[整正後]		
共通		工				幅	各層毎 40m(50m)に 1回		
編							〔整正後〕		
3	1	6	7	5	アスファルト舗装工	整正状況	200m に1回	代表箇所	
土木	一般	一般			(基層工)		〔整正後〕	各1枚	
工	施	舗				タックコート、プ ライムコート	各層毎に1回		
事	工	装工				幅	〔散布時〕 各層毎 40m(50m)に	1	
共通		工				'r⊞	1回		
編							〔整正後〕		
3 土	1	6	7	6	アスファルト舗装工	整正状況	200m に1回	代表箇所	
木	般	般			(表層工)	タックコート、プ	[整正後]	各1枚	
工	施	舗				ライムコート、フ	各層毎に1回 〔散布時〕		
事共	工	装工				平坦性	1工事に1回	1	
通						, —, <u>—</u>	〔実施中〕		
編									

ζ ε≓	77.	k-k-	R	枝		写	真管理項目		4
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3 ±	1 —	6 —	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
木工事	般施工	般舗装				整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕		
共 通	1	I				厚さ	各層毎 1,000 ㎡に 1 回 〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m(50m)に 1回		
							〔整正後〕		
$\frac{3}{\pm}$	1	6 —	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に1回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
木工	般施	般舗			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	整正状況	各層毎 200m に 1 回	1 - 1/1	
事	I.	装				□	〔整正後〕		
共 通		工				厚さ	各層毎 1,000 ㎡に 1 回 〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m(50m)に		
							1 回 〔整正後〕		
3	1	6	12	3	コンクリート舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土	<u></u>	фЛ			(セメント (石灰・	転圧状況	〔施工中〕	各1枚	
木工事	般施工	般舗装			瀝青) 安定処理工)	整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕		
共通	工	工				厚さ	1,000 ㎡に1回 ※ 〔整正後〕		※コアを採取
編							名 (登正後) 各層毎 40m (50m) に		した場 合は写
							1 回 〔整正後〕		真不要
3	1	6	12	4	コンクリート舗装工	整正状況	(金元及) 400mに1回	代表箇所	
土木	一般	一般			(アスファルト中間層)		〔整正後〕	各1枚	
工事	施工					タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
共		工				幅	各層毎 40m(50m)に		
通編							1 回 〔整正後〕		
3	1	6	12	5	コンクリート舗装工	石粉、プライムコ	各層毎に1回	代表箇所	
土木	般	一般			(コンクリート舗装版工)	<u>ート</u>	〔散布時〕	各1枚	
工事	施工	舗				スリップバー、 タイバー寸法、位置	40m(50m)に1回 〔据付後〕		
共	工	装工				鉄網寸法	40m (50m) に1回		
通編						位置 平坦性	[据付後]		
///用						十四性	1工事に1回 〔実施中〕		
						厚さ	各層毎 40m (50m) に 1回		
							〔型枠据付後〕		
						目地段差	1工事に1回 〔実施中〕		

				枝		写	真管理項目		
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3	1	6	12	6	コンクリート舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土	— јаль	一般			(転圧コンクリート版工)	転圧状況	〔施工中〕	各1枚	
木工	般施	艇 舗			下 層 路 盤 工	整正状況	各層毎 200m に 1 回		
事	工	装					〔整正後〕		
共		工				厚さ	各層毎 1,000 ㎡に 1 回		
通短						l=	〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m (50m) に		
							1 回 〔整正後〕		
3	1	6	12	7	コンクリート舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土	_	_			(転圧コンクリート版工)	転圧状況	〔施工中〕	各1枚	
木	般	般			粒度調整路盤工	整正状況	各層毎 200m に 1 回	_	
工事	施工	舗装				_ ,,,,_	〔整正後〕		
共		X I				厚さ	各層毎 1,000 ㎡に 1 回		
通							〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m (50m) に		
							1回		
0	1	C	1.0	0	ラン/ 左 II . 1 Aを出て	#4.14.1 FF 6	〔整正後〕	/\.\	
3 土	1	6	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
木	般	般			セメント(石灰・瀝	転圧状況 整正状況	福上中」 各層毎 200m に 1 回		
工	施工	舗			青) 安定処理工	至华小仉	付		
事共	工	装工				厚さ	1,000 m²に1回		※コア
通		丄				7-0	* 〔整正後〕		を採取
編						幅	各層毎 40m (50m) に		した場 合は写
							1回		真不要
							〔整正後〕		六丁女
3	1	6	12	9	コンクリート舗装工	整正状況	200m に1回	代表箇所	
土木	般	一般			(転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	Fr In	〔整正後〕	▲ 各1枚	
工	施	舗			/ / / / / / / T T F F F F F F F F	タックコート、 プライムコート	各層毎に1回		
事	工	装					〔散布時〕 各層毎 40m (50m) に		
共通		工				幅	合暦毋 40m (50m) に 1回		
編							〔整正後〕		
3	1	6	12	10	コンクリート舗装工	敷均し厚さ	200mに1回	代表箇所	
土					(転圧コンクリート版工)	転圧状況	〔施工中〕	各1枚	
木工	般施	般舗				厚さ	各層毎に 40mに1回		
事	 工	無装					〔型枠据付後〕		
共		I				平坦性	1工事に1回		
通							〔実施中〕		
編									

/r==	744	Kr.K.	kz	枝	T #	写	真管理項目		Job +	
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土 士	1 一	6 一 般	13	1	薄層カラー舗装工 (下 層 路 盤 工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
木工事	般施工					整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕			
共 通		工				厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕			
編						幅	各層毎 40m(50m)に 1回			
					II.		〔整正後〕			
3 ±	1 一	6 一 般	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
木工事	般施工	枢舗 装			粒度調整路盤工	整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕			
共通	1	工				厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕			
編						幅	各層毎 40m (50m) に 1回			
							〔整正後〕			
3 土	1	6 —	13	3	薄層カラー舗装工(上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
木工事	般施工	般舗装			セメント (石灰) 安 定処理工	整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕			
共通	1	I.				厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕			
編							※コアを採取した場合 は写真不要			
						幅	各層毎 40m (50m) に 1回			
							〔整正後〕			
3	1	6	13	4	薄層カラー舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所		
土木	一般	一般			(加熱アスファルト安定処理工)	転圧状況	〔施工中〕	各1枚		
工事	施工	舗装				整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕			
共通		工				幅	各層毎 40m (50m) に 1回			
編							〔整正後〕			
3 土	1 —	6 —	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	整正状況	200m に 1 回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		
木工工	般施一	舖				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕			
事共通	工	装工				厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕			
編編						幅	各層毎 40m (50m) に			
						- 14	1 回			
							〔整正後〕			

⁄亩	章	節	∕z	枝	工程	写	真管理項目		按 邢
編	早	即	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3 土	1	6 —	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
木	般	般				転圧状況		台工权	
工事	施 工	舗装				整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕		
共		I				厚さ	1,000 ㎡に1回		
通							〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m (50m) に 1回		
							〔整正後〕		
3	1	6	14	2	ブロック舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土	_	_			(上層路盤工)	転圧状況	[施工中]	各1枚	
木	般	般			粒度調整路盤工	整正状況	各層毎 200m に 1 回		
工事	施工	舗装				E. II. (1)	〔整正後〕		
井		表 工				厚さ	1,000 ㎡に1回	1	
通						•	〔整正後〕		
編						幅	各層毎 40m(50m)に	-	
							1 回		
							〔整正後〕		
3	1	6	14	3	ブロック舗装工	敷均し厚さ	各層毎 200m に 1 回	代表箇所	
土木	般	一般			(上層路盤工)	転圧状況	〔施工中〕	各1枚	
工	施施	補			セメント(石灰)安 定処理工	整正状況	各層毎 200m に 1 回		
事	工	装			人 之经上		〔整正後〕		※コア
共		工				厚さ	1,000 m²に1回		を採取
通							※ 〔整正後〕	=	した場
編						幅	各層毎 40m (50m) に		合は写
							1回		真不要
	1	0	1.4	_	ゴー たなサー	北山	〔整正後〕	/ \	
3 土	1	6	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ	各層毎 200m に1回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
木	般	般			(MM/M)/// X L C L L L	転圧状況		台工权	
工	施					整正状況	各層毎 200m に 1 回 〔整正後〕		
事	工	装工				幅	各層毎 40m (50m) に	-	
共通		工				'l'H	1回		
編							〔整正後〕		
3	1	6	14	5	ブロック舗装工(基	整正状況	200m に1回	代表箇所	
土	_	_			層工)		[整正後]	各1枚	
木	般佐					タックコート、	各層毎に1回		
工事	施工	舗装				プライムコート	「散布時」		
共		工					(بریدار ۱۷۵۶		
通									
編	_	^	1 -		nh → 1 → 1 · · · · · · · · ·	l 	1. La	11	
3 土	1	6	15		路面切削工	幅	1施工箇所に1回	代表箇所	
木	般	般				厚さ	〔施工後〕	各1枚	
工	施	舗							
事	工.	装							
共通		工							
編編									
/P/III)			l l					1	I .

炉	章	松	久	枝		写	真管理項目		協 刑
編	早	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3 土木工事共通編	1一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	施工厚さ 幅	40m (50m) に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	7地盤改良工	3		置換工	置換厚さ幅	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
3 土木工事共通編	1一般施工	7地盤改良工	5		パイルネットエ	厚さ 幅	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマットエ	施工厚さ 幅	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1一般施工	7 地盤改良工	8		バーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ) (ペーパードレーンエ) (袋詰式サンドドレーンエ) 締 固 め 改 良 エ (サンドコンパク ションパイルエ)	打込長さ 施工状況 杭径 位置・間隔 砂の投入量	200 ㎡又は1施工箇所に1回 (打込前後、施工中) 200 ㎡又は1施工箇所に1回 (打込後) 全数量 (打込前後)	代表箇所 各 1 枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	7 地盤改良工	9	1	固 結 エ (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径 深度	1施工箇所に1回 〔打込後〕 1施工箇所に1回 〔打込前後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	7 地盤改良工	9	2	固 結 工 (中層混合処理)	施工厚さ 幅	1,000m3~4,000m3につき1回、または施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1回 「施工厚さ施工中」 「幅 施工後」	代表箇所 各1枚	

√ ==	775	k-k-	Ø	枝	T 任		真管理項目		ф ж
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3 土木工事共通編	1一般施工	10 仮設工	5	1	土留 · 仮 締 切 工 (H 鋼 杭) (鋼 矢 板)	変位 根入長 数量	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔打込前〕 全数量 〔打込後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工(アンカーエ)	削孔深さ配置誤差	1 施工箇所に1回 〔削孔後〕 1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	10 仮設工	5	3	土 留 ・ 仮 締 切 工 (連節ブロック張り 工)	法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40m に1回	代表箇所 各1枚	_
3 土木工事共通編	1 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	天端幅 法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	10 仮設工	5	5	土留・仮締切工(中 詰 盛 土)	施工状況	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	10 仮設工	8		地 中 連 続 壁 工 (壁 式)	連壁の長さ 変位	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	10 仮設工	9		地 中 連 続 壁 工 (柱 列 式)	連壁の長さ 変位	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	

,		***	-	枝	_ ~		真管理項目		I-da
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
3 土木工事共通編	1一般施工	12工場製作工	1	1	赛 造 費 (金属支承工)	製作状況	適宜〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	1	2	鋳 造 費 (大型ゴム支承工)	製作状況	適宜〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	1	ന	仮設材製作工	原寸状況製作状況	1橋に1回又は1工事 に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	1	4	刃口金物製作工	刃口高さ 外周長	1施工箇所に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	
3 土 木	1 一般施工	12 工場製作工	က	1	桁 製 作 工 (仮組立による検 査を実施する場 合) (シミュレーション仮組立検査も含む)	原寸状況 製作状況 仮組立寸法(撮 影項目は適宜)	1橋に1回又は1工事 に1回 (原寸時) 適宜 (製作中) 1橋に1回又は1工事 に1回	代表箇所 各 1 枚	※レンン検合は寸略 さず略
3 土木工事共通編	1 一般施工	12 工場製作工	က	2	桁 製 作 工 (仮組立検査を実 施しない場合)	原寸状況製作状況	1橋に1回又は1工事 に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所各1枚	

				枝		写	真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土木工事共通編	1一般施工	12工場製作工	က	က	析 製 作 工 (鋼製堰堤製作工 (仮組立時))	仮組立寸法 (撮影項目は適 宜)	1 基に 1 回又は 1 工事に 1 回 [仮組立時]	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1一般施工	12工場製作工	4		検査路製作工	製作状況	1橋に1回又は1工事 に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	5		鋼製伸縮継手製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1橋に1回又は1工事 に1回 [原寸時] 適宜 (製作中] 1橋に1回又は1工事 に1回 [仮組立時]	代表箇所各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	6		落橋防止装置製作 工	原寸状況製作状況	1橋に1回又は1工事 に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		
3 土	1 一般施工	12工場製作工	7		橋梁用防護柵製作工	原寸状況製作状況	1橋に1回又は1工事 に1回 [原寸時] 適宜 (製作中]	代表箇所各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	8		アンカーフレーム 製作工 (仮組立時)	仮組立寸法(撮 影項目は適宜)	1脚に1回又は1工事 に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		

<i>J</i>	,	Enter	<i>p-4</i>	枝	T 45	写	真管理項目		مليل	
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	9		プレビーム用桁製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1橋に1回又は1工事 に1回 原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1橋に1回又は1工事 に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1一般施工	12工場製作工	10		鋼製排水管製作工	原寸状況 製作状況	1橋に1回又は1工事 に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	12工場製作工	11		工 場 塗 装 工	材料使用量 (塗装缶) ケレン状況 (塗替) 塗装状況	全数量 〔使用前後〕 部材別 〔施工前後〕 各層毎に1回 〔塗装後〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	13 鋼橋架設工	1		架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	架設状況	架設工法が変わる毎に 1回 〔架設中〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1一般施工	14法面工	2	1	植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生解工) (人工張芝工) (植生穴工)	材料使用量 土羽土の厚さ 法長	1工事に1回 (混合前) 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 (施工中) 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 (施工後)	代表箇所各1枚		

				枝		写	真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土 木	1 一 般	14 法 面	2	2	植 生 工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	清掃状況	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔清掃後〕	代表箇所 各1枚		
工事共通	施工	工				ラス鉄網の重 ね合せ寸法	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔吹付前〕			
編						厚さ(検測孔)	200 ㎡又は1施工箇所 に1回 〔吹付後〕			
						法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕			
						材料使用量	1工事に1回 〔混合前〕			
3 土 木 工	1 一般施	14法面工	3		吹 付 エ (コンクリート) (モルタル)	清掃状況	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔清掃後〕	代表箇所 各1枚		
上事 共 通	旭工	<u>Т</u>				ラス鉄網の重ね 合せ寸法	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔吹付前〕			
編						法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕			
						厚さ(検測孔)	200 ㎡又は1施工箇所 に1回 「吹付後」			
3 土木工事共通	1 一般施工	14法面工	4	1	法 枠 工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 幅 高さ 吹付枠中心間 隔	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
編3 土木工事共	1 一般施工	14法面工	4	2	法 枠 エ (プレキャスト法枠工)	法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
通編3土木	1 一般	14 法 面	6		ア ン カ ー エ	せん孔方向	1施工箇所に1回 〔削孔後〕	代表箇所 各 1 枚		
· 工事共通編	施工	工				水平・開度配置誤差	1施工箇所に1回 〔施工後〕			

∜ ⊟	盐	松	∕z	枝		写	真管理項目		145¢	⊞
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
3 土木工事共通編	1一般施工	15 擁壁工	1		現場打擁壁工	裏込厚さ 厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工中] 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [型枠取外し後]	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1一般施工	15 攤 壁 凵	2		プレキャスト擁壁工	据付状況	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔埋戻し前〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	15 擁壁工	က		補強土壁工 (補強土 (テール アルメ) 壁工法) (多数アンカー式 補強土工法) (ジオテキスタイ ルを用いた補強土 工法)	高さ 鉛直度	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	15 擁壁工	4		井桁 ブロックエ	裏込厚さ 法長 厚さ	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工中] 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚		
3 土	1 一般施工	16 床版工	2		床版工	幅 厚さ 鉄筋の有効高 さ 鉄筋のかぶり 鉄筋間隔	1スパンに1回 〔打設前後〕	代表箇所 各1枚		
3 土木工事共通編	1 一般施工	19 水路復旧工			土水路	幅高さ	200m に1施工箇所に 1回	代表箇所各1枚		

∜ ≓	**	<i>k</i> -k-	Ø	枝				1 .1.			真管理項目		1 44.	
編	章	節	条	番		工		種	•	撮影項目		整理条件	摘	要
4 農地編	1 ほ場整備工	3 整 地 工	1	1	表	土	;	扱	V	表土厚		代表箇所 各1枚		
4 農 地 編	上1ほ場整備工	3 整 地 工	1	2	基表	盤土		整整	地地	施工状況 表土厚		代表箇所 各1枚		
4 農地編	1ほ場整備工		1	3	畦	畔	復	旧	工	高さ幅	おおむね 200m 毎に 1 「回 「施工後」	代表箇所 各1枚		
4 農地編	1ほ場整備工	3 暗渠排水工	4	1	暗吸	渠	排水	水	工渠	布設深 延長 布設状況 その他必要箇 所	1 耕区当たり 1~2 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
4 農地編	1ほ場整備工	3 暗渠排水工	4	2	集(導(支	水	線線	渠) 渠)	布設深 延長 布設状況 その他附帯施 設	おおむね 50m~100m 1 に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚		
4 農地編	1ほ場整備工		1			也かんプリ				埋設深	1ha 当たり 3 回 (施工中)	代表箇所 各1枚		
4 農地編	1ほ場整備工	7 道路 工	11	1	耕 (作 砂	利	道 道	路)	幅員 高さ 敷砂利の幅・厚 さ	幹線道路:50~100m 毎 1 に1回 支線道路:200m 毎に1 回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
4 農地編	1ほ場整備工	7 道路 工	11	2	砂	利	Î	舗	装	幅厚さ	おおむね 200m 毎に 1 「回 「施工後」	代表箇所 各1枚		
4 農地編	2 農地造成工	3 基盤工	2	1	テ(階	ラ段	畑	ス)	法勾配 幅員	テラス延長 100m 毎に 1 1箇所 上記未満はテラス毎に 1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		

編	章	節	条	枝	-	I.	種		写		理 項 目	_	摘 要
// /////	平	디기	木	番		<u></u>	7里		撮影項目	撮影頻度	き 〔時期〕	整理条件	100 女
4 農地編	2 農地造成工	3 基盤工	2	2	改	良	Щ	成	土質 岩質 法勾配	1回	〔施工中〕 の変わる毎に 〔掘削中〕 100m 毎に1	代表箇所 各 1 枚	
4 農地編	2 農地造成工	5 畑 面 工	1	2	耕	起	深	耕	耕起深	おおむね 1 箇所 つぼ掘箇所	〔施工後〕 ha 当たり 1 fは全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
4 農地編	2 農	5 畑面工	1	က	土	壌	改	良	pH 測定	回	Cha 当たり1 ル採取中及び 試験中〕	代表箇所 各 1 枚	
4 農地編	2 農地造成工	6 道路 工	9		道 (**	路件作		工)	幅員敷砂利の幅・厚さ	おおむね] 回	100m 毎に1 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
4 農地編	3 水 路 工	6 開 渠 工	2		現 場	打ち	開渠	工	厚さ 幅 高さ	箇所に1回)又は1施工] 砕取外し後]	代表箇所 各 1 枚	
4 農地編	3 水路工		3		大型フ	第コン フリユ [、] 第コン	クリー ーム)	- F	据付状況	40m(50m 箇所に 1 回)又は1施工] 〔埋戻し前〕	代表箇所 各1枚	
4 農地編	3 水路工		その他		コンジ エ アスプ エ			-	法長厚さ 法勾配 裏込め材厚	箇所に1回)又は1施工	代表箇所 各1枚	
4 農地編	3 水路工		その他		ブロッ (((((((((((((((((((法長 厚さ 法勾配 裏込め材厚	箇所に1回)又は1施工 「施工後」)又は1施工 箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	鉄ク柵いア隔設の箇影 コーにはム柵、必をる しまる。

/ =	مواب	K+K+	kz	枝	T 15	写	真管理項目		Jedo-	
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
4農地編	3 水 路 工	6 開 渠 工	その他		ライニング水路 連節ブロック コンクリートマット	幅 法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚		
4 農地編	4 管水路工	5 管体基礎工	1		管体基礎工(砂基礎等)	高さ幅	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [締固め時]	代表箇所 各1枚		
4 農地編	4 管水路工	6 管 体 工	1	1	管 水 路 (遠心力鉄筋コンク リート管) (ダクタイル鋳鉄 管) (強化プラスチック 複合管)	ジョイント間 隔 埋設深 布設状況	40m (50m) 又は1施工 箇所毎に1回 [布設中]	代表箇所 各1枚		
4 農地編	4 管水路工	6 管 体 工	1	2	管水路 (硬質ポリ塩化ビニール管)	ジョイント間 隔 埋設深 布設状況	40m (50m) 又は1施工 箇所毎に1回 [布設中]	代表箇所 各1枚		
4 農地編	8ため池改修工	3 堤体工	4		堤 体 盛 立 工	まき出し厚 転圧状況 幅 法長 法勾配	1施工箇所に1回 [巻出し時] 転圧機械変わる毎に1回 [締固め時] 1施工箇所に1回 [施工後]	代表箇所 各 1 枚		
4農地編	8ため池改修工	5 洪水吐工			洪 水 吐 工	幅、 高さ 配筋 打継目 パイプ布設 ジョイント関係	2 スパンにつき 1 箇所 [施工後] 箇所単位の構造物につ いては適宜撮影する。	代表箇所 各1枚		
4 農地編	8ため池改修工	6 取水施設工	2 3		樋 管 エ 同上付帯構造物 (土砂吐ゲート等)	幅 厚さ 高的 配筋 打継目	10mにつき1箇所 〔施工後〕 箇所単位の構造物につ いては適宜撮影する。	代表箇所 各 1 枚		
4 農地編	8ため池改修工	6 取水施設工	2 3		水路トンネル	巻厚 型枠 切羽 支保工 矢板 坑口	1スパンにつき1箇所 (施工後)掘削タイプの変化する 毎に1箇所 (施工後)	代表箇所 各 1 枚		

∜ ≓	**	p.p.	Ø	枝	工 任	写	真管理項目		lata ∃	H-
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	更
5治山編	1 渓間工	3コンクリート治山ダムエ	3		コンクリート治山 ダム本体工	打継面処理 打設養生 堤幅 堤長 堤高	1 リフト毎に1 回 〔施工中〕 測定箇所毎に1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5 治山編	1 渓間工	3コンクリート治山ダムエ	4		側壁工	打継面処理 打設養生 高さ 幅 長さ	1 リフト毎に1回 〔施工中〕 測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5治山編	1 渓間 工	3	6		洗掘防止対策	厚さ 幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5治山編	1 渓間 工	4	2		工場製作工 (鋼製堰堤製作工 (仮組立時))	仮組立寸法 (撮影項目は適 宜)	1基に1回又は1工事 に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各 1 枚		
5 治山編	1 渓間 工	4 鋼製治山ダムエ	5		鋼製枠ダム本体工	堤幅 堤長 堤高	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		

♦	章	節	Ŋ	枝	T #	写	真管理項目		校 亜
編	早	即	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
5 治山編	1 渓間 工	4 鋼製治山ダムエ	7		鋼製スリットダム 本体工	堤幅 堤長 堤高	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5治山編	1 渓間 工	4矢の田の海路中	8		側壁工	神 長め さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	1 渓間 工	5 木製治山ダムエ	3		木製治山ダムエ	堤幅 堤長 堤高	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	1 渓間 工	5 木製治山ダムエ	3		木 製 流 路 工	高さ 幅 厚さ 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	1 渓間 工	6 護岸工	4		コンクリート擁壁工	高さ 幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	1 渓間 工	8 水制工	1		水制工	高さ 幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	1渓間工	9 流路工	1		流 路 工	高 唱 	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	2 山腹工	4のり切工			のり切工	法勾配 法長	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	2 山腹工	5 土	4		土 留 工 (石積及びコンクリートブロック積)	コンクリート 等厚さ 裏礫厚 延長 高さ	1施工単位に1回 〔施工中〕 測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	

				枝									
編	章	節	条	番		工	種		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
5 治 山	2 山 腹	5 土 留	5		土 (留 太 積	工)	高さ 幅 延長	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
編 5 治 山 編	工 2 山 腹 工	工 5 土 留 工	7		·	鋼	留 製 枠		高さ 幅 延長	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	2 山腹工		8		土(鏳	扶線	留かごす	工 (額)	止め杭の高さ、 末口径 高さ 幅 延長	適宜 [施工中] 測定箇所に 1 回 [施工後]	代表箇所 各1枚		
5 治山編	2 山腹工	7水路工	2 3		,	レンク	路 カリー みび空		厚さ	1 施工単位に1回 [施工中]	代表箇所 各1枚		
5治山編	2 山 腹 工	7 水路工	4 7		(鋼	/ゲート 製及	路 マリュー マびコ 上次製	ンク	敷設状況	1 施工単位に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
5治山編	2 山 腹 工	7 水路工	5 6		水 ((土の	張	路 芝 緑化二次	工) (製品)	幅深さ	1施工単位に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	2 山 腹 工	7 水路工			水 (路 太 積	工)	幅深さ	1施工単位に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	2 山 腹 工	8暗きょ工			暗	き	よ	I	幅 深さ 延長	1施工単位に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	2 山腹工	9のり枠工			0	ŋ	枠	工	法長幅 高さ 吹付枠中心間隔	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚		
5 治山編	2 山腹工		2		特	殊!	吹付	工	材料使用量 法長	1工事に1回 〔混合前〕 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		

				枝			真 管 理 項 目		
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
5 治山編	2 山 腹 工	11 栅 工	2		柵 エ (木柵及び丸太柵)	地上高 杭間隔	杭40本程度又は1施工 箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5治山編	2 山 腹 工	11 栅工			柵 工 (鋼製及び合成樹 脂 二 次 製 品)	地上高 杭間隔	杭40本程度又は1施工 箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
5 治山編	2 山 腹 工	12 筋 工			階段切付工	幅 高さ	おおむね延長 200m 毎 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	2 山腹 工	12 筋 工	3 4 5		筋 工	幅 高さ 苗木間隔	おおむね延長 200m 毎 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	2山腹工				伏 工	斜面整地状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
5 治山編	2 山腹工		3		落 石 防 護 柵 工	高さ	1施工単位に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	2 山腹工		6		固 定 工 (ロープ伏工)	間隔 延長 削孔長 削孔角度	1施工単位に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5 治山編	3 海岸防災林造成	潮	1		防潮堤(波返し工)	幅高さ	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
5治山編	3 海岸防災林造成	3 防潮工	1		防水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水水	幅高	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	

Ø≓	<u> </u>	F.F.	Ŋ	枝		T 1#	写	真管理項目		4×1×	ਜ਼ਾਵੇ
編	章	節	条	番	L	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
5 治山編	3 海岸防災林造成	3 防潮 工	1			ンクリートスファルト	厚さ 法長又は高さ 裏込め厚	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工後] 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 [施工中]	代表箇所 各1枚		
5治山編	3 海岸防災林造成	3防潮工	2		消消根	波波固工堤工	数量 ブロックの形 状寸法 幅 高さ 長さ	全数量 〔製作後〕 形状寸法変わる毎に 1 回 〔製作後〕 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5 治山編	3 海岸防災林造成	丘	1		堆 (坩	砂 工	高さ	延長 40~50m 毎に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	3 海岸防災林造成	丘	2		盛	土 工	巻出し厚 締固め状況 幅 法長	80m 毎に1回 〔巻出し中〕 転圧機械変わる毎に1回 〔締固め時〕 80m 毎又は1施工箇所 毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5 治山編	3 海岸防災林造成	森林	1		生	育基盤盛土工	敷均し厚 高さ 法長 幅	40m (50m) 又は面積 100㎡毎に1回 〔施工中〕 40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5 治山編	3 海岸防災林造成	林	2		防	風 工	高さ	延長 40~50m 毎に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		

編	章	節	久	枝				錘		写	真管理項目		椊	⊞
	早		条	番		I.		種		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
5 治山編	3 海岸防災林造成	5 森林造成	4		静(静	砂砂	垣	工)	高さ	延長 40~50m 毎に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
5治山編	3 海岸防災林造成	5 森林造成	5		植(大	栽苗	木	Η)	掘取り、根回し 状況 植穴の形状 客土、施肥、土 壌改良の状況 幹周、支柱取付 状況	形状寸法、ランク毎 主要樹種毎 [施工中] 形状寸法、ランク毎 主要樹種毎 [施工後]	代表箇所 各 1 枚		
5治山編	3海岸防災林造成	林	5		植 ((中小	栽苗苗	木木	工))	掘取り、根回し 状況 客土、施肥、土 壌改良の状況 支柱取付状況	適宜 [施工中] 適宜	代表箇所 各1枚		
5 治山編	3 海岸防災林造成	5 森林造成	5		植(地	栽被	類	工)	植付状況 辺測定状況	適宜 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	4森林整備	3森林整備	4		植				栽	標準地の林況	標準地毎に1回 〔施工前後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	4森林整備	4 保 育	4		本受除	数	調光	整	伐伐伐	標準地の林況	標準地毎に各1回 〔施工前後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	4森林整備	4 保 育	5		枝		落		l	標準地の林況	標準地毎に各1回 〔施工前後〕	代表箇所 各1枚		
5 治山編	4森林整備	5 歩道整備	1		歩	道		作	設	幅	おおむね延長 200m 毎 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		

				ماسا			72	古然细巧口			
編	章	節	条	枝	I	. 種	写			摘	要
///110	ļ	17 1	<	番	1	- 1±	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	Ī	4
5	4	5	1		階	段 工	幅	1施工箇所に1回	代表箇所		
治	森	歩			(す	1 太)	高さ	〔施工後〕	各1枚		
Щ	林	道									
編	整	整									
	備	備									
5	5	1			木製フ	ブロック積エ	法長又は高さ	40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
治	保							箇所に1回	各1枚		
山	安							[施工後]			
編	林							(旭工区)			
	管										
	理										
	道										
5	5	1			木製品	路面排水工	幅	1施工箇所に1回	代表箇所		
治	保				,		延長	〔施工後〕	各1枚		
山	安						延尺	(旭工区)	11 1/1		
編	林										
- piliq	管										
	理										
	道										
	旭										

				ملط				真管理項目			
編	章	節	条	枝番	エ	種	撮影項目		整理条件	適	用
6	1	5	19	音	羽口	工	振影項目 法長	概彰頻及〔時期〕 40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
河	築	法	13	1	(じゃか		伝文 厚さ	毎所に1回	1 (衣固)		
川	堤	覆			(0 , 7	, _ ,	序で		谷1枚		
編	•	護						〔施工後〕			
	護	岸									
	岸	工									
6	1	5	13	2	羽口	工	長さ	40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
河	築	法			(ふとんか	>")		箇所に1回	各1枚		
川編	堤	覆護			(かご枠)	(_)		〔施工後〕			
///	護	岸			(% = 11)						
	岸	工									
6	1	7	3		根固ブロ	ックエ	数量	全数量	代表箇所		
河	築							〔製作後〕	各1枚		
川	堤	固					7		-		
編	護岸	め					ブロックの形	形状寸法が変わる毎に			
	厈	工					状寸法	1回			
C	_	_	-		у , +		+4 → _1.¼-	〔製作後〕	/ \ \- \- \- \- \- \-		
6 河	1 築	7 根	5		沈床	工	格子寸法	40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
[H]	堤	固					厚さ	箇所に1回	各1枚		
編	護	め					割石状況	〔施工後〕			
,,,,,	岸	工					幅				
6	1	7	6		捨 石	工	幅	40m (50m) 又は1施工	代表箇所		
河	築	根						箇所に1回	各1枚		
川	堤	固						〔施工後〕			
編	護岸	め エ									
					Liberton S. S.	L 14-1 -					
6 var	1 第	8 1	8		杭出しオ	ド制 工	径	1施工箇所に1回	代表箇所		
河川	築堤	水制					杭長	〔打込み前〕	各1枚		
編	遊護	T.					幅	1施工箇所に1回]		
45 lin	岸						方向	〔施工後〕			
6	2	3	6		函 渠	工	厚さ	1施工箇所に1回	代表箇所		
	樋						幅	〔型枠取外し後〕	各1枚		
川	門	門			(本体	上)	内空幅				
編	· 樋	· 樋					内空高				
	管	管									
	ı	本									
		体									
		工									
6	2	8	6		函 渠	工 工	据付状況	40m (50m) 又は1施工	不要		
河川	樋門	樋門			(ヒューム管 (PC管)	雪)		箇所に1回			
川編	1 1	1 1			(コルゲート)	パイプ)		〔巻立前〕			
// /////	樋	樋			(ダクタイル)						
	管	管									
		本									
		体一									
		工									

				枝						真	管 理	項 目		T	
編	章	節	条	番		工	種						整理条件	- 摘	要
6 河川編	2 樋門・樋管	3 樋門・樋管本体工	7 8		翼水	壁 叮:		НН	厚さ 幅 高さ		L箇所に		代表箇所 各 1 枚		
6 河川編	2 樋門・樋管	6 付属物設置工	7		階	段		H	幅 高さ 長さ	1 施]	Ľ箇所に	. 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
6 河川編	3 水門		7 8 9 10 11		床堰門ゲ胸	版 柱 柱 上 ト 壁	: : :作台	エエエエエ	厚さ 幅 高さ	1施]	□箇所に 〔型枠፤	1回 取外し後〕	代表箇所 各 1 枚		
6 河川編	4 堰	4 可動堰本体工	13 14		開土	砂		エエ	厚さ 幅 高さ 延長	1施]	正箇所 に	. 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
6 河川編	4 堰	5 固定堰本体工	8 9 10		堰水土	本 叮 砂		エエエ	厚さ 幅 高さ	1施]	正箇所 に	1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
6 河川編	4 堰	6	3		魚	道本	体	工	厚さ 幅 高さ	200m ℃ 1 E		則定箇所每 〔施工後〕	任表箇所 各1枚		
6河川編	4 堰	7管理橋下部工	2		管	理橋		I.	厚 定 端幅 (橋軸方向) 敷幅 (橋軸方向) 高 高 高 の 高 と の 長 敷長	1施]	広箇所 に	. 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
6河川編	5 排水機場工	場	6		本值	本工			厚さ 幅 高さ	1施]	区箇所に	. 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		

				枝		写	真管理項目		
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
6 河川編	5 排水機場工		7		燃料貯油槽工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜	
6 河川編	5 排水機場工		7		コンクリート床版工	厚 幅 高	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6 河川編	6 床止め・床固め	3 床止工	6		本 体 工 (床固め本体工)	天端幅 堤幅 水通し幅	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
6河川編	6 床止め・床固め	3 床 止 工	8		水叩工	幅厚さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
6 河川編	6 床止め・床固め	4 床固め	6		側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
7地すべり編	1 地すべり	3 法面工	8		鉄 筋 挿 入 工 (ロックボルト工)	削孔深さ 配置誤差 せん孔方向 削孔穴 鉄筋挿入状況 グラウト材注 入状況	削孔完了時立会以外全数 ビット設置時又は交換時 長さ毎に1回以上	代表箇所 各 1 枚	
7地すべり編	1地すべり防止工	5 水路工	4		明暗渠工	厚さ 幅 高さ 深さ 布設状況	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔型枠取外し後〕	不要	

		t ot o	-	枝	_					正真	管 理	 項 目		1-1-	
編	章	節	条	番		工	種		撮影項目		影頻度		整理条件	摘	要
7地すべり編	1地すべり防止工	下水排	4		集排力	k ボー	- リン	グエ	削孔深さ 配置誤差 せん孔方向 水平、開度	1施	工箇所は	[加工後]	不要		
7地すべり編	1地すべり防止工	6地下水排除工	5		集	水	井	工	偏心量 長さ 巻立て幅 巻立て深さ	1施	工箇所に	[1 回 [施工後]	不要		
7地すべり編	1地すべり防止工	止	6		合	成	杭	工	編心量 数量	1施全数	工箇所に	[1 回 [施工後] [打込後]	代表箇所 各1枚		
8道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2		遮音	達支村	主製作	工	部材長	1施	工箇所に	21回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	1 道路改良	ル	6		場所	打	函 渠	工		100 i に 1	口	1 施工箇所取外し後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	1 道路改良	10 落 石 雪	4				止 網		幅	1施	工箇所に	〔1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8 道路編	1 道路改良	石	5		落石	防	護柵		高さ		(50m) に1回	又は1施工 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		

<i>(</i> ===	مواب	Fyr.	kr	枝	T 15	写	真管理項目		1 5/-	<u>.</u>
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘 弱	更
8道路編	1 道路改良	10落石雪害防止工	6		防雪柵	基礎幅基礎高さ	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	1 道路改良	石	7		雪崩予防栅工	高さ 基礎幅 基礎高さ アンカー長	1 施工箇所に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚		
8 道路編	1 道路改良	11 遮音壁工	4		遮音壁基礎工	幅高さ	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前後]	適宜		
8道路編	1 道路改良	11 遮音壁工	5		遮音壁本体工	支柱間隔 支柱ずれ 支柱倒れ 高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	2 舗装			1	歩 道 路 盤 工取合舗装路盤工路肩舗装路盤工	敷均し厚さ転圧状況整正状況厚さ幅	各層毎 200m に 1 回 [施工中] 各層毎 200m に 1 回 [整正後] 各層毎 1,000 ㎡に 1 回 [整正後] 各層毎 40m (50m) に 1回 [整正後]	代表箇所 各 1 枚		
8道路編	2 舗 装			2	歩 道 舗 装 工 取 合 舗 装 工 路 肩 鬙 工 表	タックコート、	200m に 1 回 〔整正後〕	代表箇所各1枚		
8 道路編	2 舗装	5 排水構造物工	9		排水性舗装用路屑排水工	据付状況	40m又は1施工箇所に 1回 〔施工中〕	不要		

				枝			真 管 理 項 目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
8道路編	2 舗装	7 踏掛版工			踏 掛 版 エ (コンクリートエ) (ラバーシュー) (アンカーボルト)	<コンクリートエ> 各部の厚さ 各部の長さ <ラハーシュー> 各部の長さ 厚さ <アンカーボルト> 中心のずれ アンカー長	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
8道路編	2 舗 装		4	1	大型標識工 (標識 基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎5箇所に 1回 〔施工後〕	適宜		
8道路編	2 舗 装	9 標識工	4	2	大型標識工 (標識 柱工)	設置高さ	1施工箇所に1回	適宜		
8 道路編	3 鋼橋下部		3		鋼製橋脚製作工(部材)	原寸状況製作状況	1脚に1回又は1工事 に1回 [原寸時] 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		
8 道路編	3 鋼橋下部	3 工	3		鋼製橋脚製作工(部材)	仮組立寸法(撮 影項目は適宜)	1脚に1回又は1工事 に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	4	8		橋台躯体工	厚天(橋軸 大橋軸 大橋軸 大橋軸 大高 を を 長 乗 長	全数量〔型枠取外後〕	代表箇所 各 1 枚		

/r==	44	K-K-	A	枝			15		真管現			John	
編	章	節	条	番		工	種	撮影項目	撮影頻度	ぜ 〔時期〕	整理条件	摘	要
8道路編	3橋梁下部	5RC橋脚工	9		橋(((脚 重 力 半 張 出	式)	厚さ	全数量 [2	型枠取外後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	5RC橋脚工	9		,	ラーメ	- ,	厚さ 天橋幅 敷幅 高さ 長さ	全数量	型枠取外後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚工	9	1	橋 (脚 フーラ		幅 高さ 長さ	全数量 〔 <u>*</u>	型枠取外後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚工	9	2	橋(脚フーラ	f ン ク ゛ 工 型	幅 高さ	全数量 [<u>₹</u>	型枠取外後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	6鋼製橋脚工	10	1	橋(脚 架 I 型·		架設状況	架設工法力 1回	「変わる毎に 「架設中」	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	6 鋼製橋脚工	10	2	橋 (脚 架 門	設 工 型)	架設状況	架設工法力 1回	「架設中」	代表箇所 各1枚		
8道路編	3橋梁下部	6	11		現	場。継	手 工	継手部のすき間	1 施工箇所	に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋	梁用高欄	製作工	原寸状況製作状況	1橋に1回 に1回 適宜	又は1工事 [原寸時] 〔製作中]	代表箇所 各1枚		
8道路編	4 鋼橋上部	4 鋼	10	1	支 (郵 製		支承取付状況	1スパンに	. 1 回 〔取付後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	4 鋼橋上部	4 鋼橋架設工	10	2	支 (承ゴム	工 支 承)	支承取付状況	1スパンに	.1回 〔取付後〕	代表箇所 各1枚		

				枝		写				
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
8道路編	4 鋼橋上部	7橋梁付属物	3		落橋防止装置工	アンカーボル ト孔の削孔長		代表箇所 各1枚		
8 道路編	4 鋼橋上部	7橋梁付属物	5		地覆工	地覆の幅 地覆の高さ 有効幅員	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	4 鋼橋上部	梁付属物	6 7		橋梁用防護柵工橋梁用高欄工	幅高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
8 道路編	4 鋼橋上部	7	8		検 査 路 工	幅高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8道路編	5コンクリート橋上部工	5プレビ―ム桁橋工			プレビーム桁製作 工 (現 場)	原寸状況 製作状況 仮組立寸法 (撮影項目は 適宜) 幅 高さ	1橋に1回又は1工事 に1回 原寸時] 適宜 (製作中] 1橋に1回又は1工事 に1回 (仮組立時] 桁毎に1回 (型枠取外し後)	代表箇所 各 1 枚		
8道路編					林 道 工 土 工	幅員 法長 法勾配 土側溝 路面	40m (50m) 又は1施工 箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
8 道路編	1 道路改良				上置・下置路盤工 (砂 利)	敷砂利 幅 厚さ	40m (50m) 又は1施工 箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
8 道路編	1 道路改良				コンクリート路面 工		40m (50m) 又は1施工 箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		

∅ ≓	25.	F.F.	Ø	枝		-	1.4.			真管理項目		4 57: 7	-H-1
編	章	節	条	番		工	種		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	1 基盤整備	3敷地造成工	2		表	土	掘	削	土質等の判断 幅 深さ 法長	200m又は1施工箇所 に1回又は施工面積 1,600㎡毎に1回 [掘削中] 200m又は1施工箇所 に1回又は施工面積 1,600㎡毎に1回 [掘削中]	代表箇所 各 1 枚		
9 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	3	1	開	渠	排	水	高さ 幅	120m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		
9 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	3	2	暗	渠	排	水	高さ 幅 厚さ 長さ	120m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		
9 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	4		普深混心	通 居 土	_	耕耕耕砕	幅 深さ 施工状況	耕耘タイプ毎に1回又は 施工面積1,600 ㎡毎に 1回 [施工前] [施工後] [施工中]	不要		
9 公園編	1 基盤整備	5 植栽基盤工	5		土中除施	性 和 剤	改] 施	良用塩肥	幅 深さ 施工状況	施肥配合タイプ毎に1回 又は施工面積1,600 ㎡ 毎に1回 [施工前] [施工後] [施工中]	不要		
9 公園編	1 基盤整備	基	6		盛士	上(流) 上(発) 上(採) 上(購)	取表出	<u>(</u>)	巻き出し厚 締固め度 幅 法長	200mに1回又は施工 面積1,600 ㎡毎に1回 〔巻出し時〕 転圧機械が変わる毎に 1回 200mに1回又は施工 面積1,600 ㎡毎に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	1基盤整備	5 植栽基盤工	7	2	人	工 地 盤	连排 水	〈層	高さ 幅 厚さ 長さ	120m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		
9 公園編	1基盤整備	5 植	7	3	フ防	イ ル 根 シ		٦ /	高さ 幅 厚さ	120m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		

¢≓	2 55	<u>k-</u> k-	Ŋ	枝	T #	写	真管理項目		体 亜
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
9 公園編	1基盤整備	5 植栽基盤工	7	4	立排水浸透桝	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所に1回 〔型枠取り外し後〕	不要	
9 公園編	1基盤整備	6 法面工	3		法面ネット	法長	40m (50m) 又は1施工 箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
9 公園編	1基盤整備	6 法面工	6		編 柵 工	高さ	100m 又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
9 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	1		崩れ積	胴込め裏込厚 法長又は高さ	120m又は1施工箇所 に1回 [施工中] 120m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚	
9 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	8	13	石積高さ調整	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前〕 〔施工後〕	適宜	
9 公園編	1 基盤整備	8 擁壁工	9		土 留 め 工	基礎高 基礎幅 根入長 高さ 延長	100m又は1施工箇所 に1回 [施工前] [施工後] 100m又は1施工箇所 に1回	適宜 代表箇所 各1枚	
9 公園編	2 植栽	工	3		高木植栽 高木植栽 (支柱有・幹捲有) 高木植栽 (支柱有・幹捲無)	植穴 径深さ 施工 大況 を主 料 壊 は で を で で で で で で で で で で で で で で で で で	版工後] 樹種別1回	適宜	
9 公 園 編	2 植栽		6		地 被 類 植 栽 工	施工状況	地被類別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	

				枝				真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮	影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	2 植 栽	3 植栽工	7		草花種子散布草花植生マット	材料使厚さ	E用料	種子別又は1工事につき1回 [混合前] 種子別又は1施工箇所につき1回 又は施工面積 1,600 ㎡ 毎に1回	代表箇所 各 1 枚		
9 公園編	2 植栽		8		播種	種子 肥料 養生 材	播種 状況 施工状況 材料の使 用量(空 袋)	種子別1回 [施工後] 種子別1回 [搬入時] [施工中]	適宜		
9 公園編	2 植 栽	栽 工	9		花壇植栽	施工状		花壇植物別1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	2 植 栽		10	1	防風ネット	支柱の 延長	高さ	120m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	代表箇所 各1枚		
9 公園編	2 植 栽	栽 工	10	2	寒冷紗巻き	施工状		樹種別1回 〔施工後〕	適宜		
9 公 園 編	2 植 栽	栽 工	10	ဘ	植穴透水層	厚さ 幅 長さ		樹種別1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	2 植 栽		10	4	空気管	施工状		樹種別1回 [施工後]	適宜		
9 公園編	2 植 栽		10	8	養生柵	基礎福 根 根 高 延 長	î H	100m又は1施工箇所 に1回 [施工前] [施工後] 100m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	適宜 代表箇所 各1枚		
9 公園編	2 植 栽		10	9	支柱設置	施工状		樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	2 植 栽	3 植	11	1	埋込型樹名板	基礎信基礎幅		樹種タイプ毎5箇所に 1回 (施工前は必要に応じ て) [施工前] [施工後]	適宜		

<i>/</i> —	-4-	tinkin	ė.	枝	15		写	真管理項目		1-4-	
編	章	節	条	番	工 種	撮影	項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	2 植 栽	栽 工	11	2	幹巻型樹名板	施工状況	兄	樹種別1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	2 植栽	3 植栽工	12	1	根囲い保護	基礎高基礎幅根入長		基礎タイプ毎5箇所に 1回 (施工前は必要に応じ て) [施工前] [施工後]	適宜		
9 公園編	2 植 栽	4 移植工	3	1	高中木根回し	根回しれ	犬況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	2 植 栽		4	1	高木移植	樹木 支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	2 植 栽		5	1 2 3	根株移植 根株運搬 特殊機械掘取 特殊機械運搬	施工状況		樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公 園 編	2 植 栽	植工	6	1	中低木移植	樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 [施工後]	適宜		
9 公 園 編	2 植 栽	植 工	7	1 2	地被類移植 地被類運搬	施工状態	兄	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	3緑地育成	4 樹木整姿工	3		基本剪定 軽剪定 機械剪定	施工状態	兄	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	3緑地育成		4 5		手刈 機械刈	施工状剂	兄	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	3緑地育成	育	4	1 2	樹勢回復	施工状態	兄	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	3緑地育成	5 樹木育	4	3	樹木修復	施工状態	兄	修復方法別に1回 〔施工後〕	適宜		

v≓.	75.	kk	Ø	枝	- F 任	写	真管理項目		44	
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	4施設整備	水設備工	က	1 2 3 4 5	メーターボックス 止水栓 止水栓ボックス 不凍水栓 ボックス類高さ調整	据付状況	5箇所に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	4施設整備	3 給水設備工	6	2	ミスト	施工状況	100m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	4施設整備			3	ドリップパイプ	施工状況	100m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		
9 公園編	4施設整備	3 給		4 5	散水線 散水栓ボックス	据付状況	5箇所に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	4施設整備	3		6	散水栓高さ調整	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前〕 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	4施設整備	3 給水設備工	8	1	給水管 埋設シート	高さ 施工状況	120m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		
9 公園編	4施設整備	3 給水設備工	8	2	埋設標	据付状況	5箇所に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	4施設整備	6電機設備工	ဢ		ハンドホール	配管状況	100m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	4施設整備	6電機設備工	უ		ハント・ホール高さ調整	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前〕 〔施工後〕	適宜		

				枝		写	真管理項目			
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	4施設整備	6電機設備工	က		引込柱 分電盤	基礎高 基礎幅 根入長	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前] [施工後]	適宜		
9 公園編	4施設整備	6電機設備工	3		分電盤高さ調整	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前〕 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	4施設整備	6電機設備工	ဢ		照明灯基礎	基礎高 基礎幅 根入長	基礎タイプ毎5箇所に 1回 (施工前は必要に応じ て) [施工前] [施工前]	適宜		
9 公園編	4施設整備	6電機設備工	6		電線管 電線 埋設シート	高さ 据付状況	120m又は1施工箇所 に1回 〔埋戻し前〕	不要		
9 公園編	4 施設整備	7 園路広場整備工	14		飛石	砕石基礎 厚さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		
9 公園編	4施設整備	7園路広	20		デッキ基礎 デッキ設置	基礎高 基礎幅 根入長	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前] [施工後]	代表箇所各1枚		
9 公園編	4 施設整備	8修景施設整備工	3		石組 景石	施工状況	1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	適宜		

勿	章	松	夂	枝		写	真管理項目		松	ті
編	早	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	4施設整備	8 修景施設整備工	4		つくばい 井筒 灯篭 石塔 擬石造形	施工状況	5 箇所に 1 回 〔施工後〕	適宜		
9 公園編	4 施設整備	8修景施設整備工	5		袖垣 垣根	高さ延長	120m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
9 公園編	4 施設整備	8 修景施設整備工	5		トレリス 緑化フェンス	基礎高 基礎幅 根入長 高さ 延長	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) 〔施工前〕 〔施工後〕 100m又は1施工箇所 に1回	適宜 代表箇所 各 1 枚		
9 公園編	4施設整備	8修景施設整備工	7		流れ 滝 池 州浜 壁泉 カスケード カナール	厚さ 幅 高さ 施工状況	〔施工後〕 1施工箇所に1回 〔施工前〕 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		
9 公園編	4 施設整備	9			フ [*] ランコ シ [*] ャンク [*] ルシ [*] ム 滑台 シーソー 鉄棒 ラタ [*] ー はん登棒 スプ [*] リンク [*] 遊具 複合遊具 アスレチック遊具 健康遊具施設	設置高さ 基礎高 基礎幅 根入長	1回/1基 [施工後] 基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応じて) [施工前] [施工後]	代表箇所 各 1 枚		
9 公園編	4施設整備	9遊戲施設整備工			砂場 現場打遊具 徒渉池	厚さ 幅 高さ 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工前〕 〔施工後〕	代表箇所各1枚		

				枝		写真管理項目				
編	章	節	条	番	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘	要
9 公園編	4施設整備	10サービス施設整備工	3		時計台	基礎高 基礎幅 根入長	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前] [施工後]	適宜		
9 公園編	4施設整備	10サービス施設整備工	4		水飲み場	設置高さ 基礎高 基礎幅 根入長	1回/1基 [施工後] 基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前] [施工後]	適宜		
9 公 園 編	4 施設整備	10 サービス施設整備工	5 8		ベンチ 縁台 テーブル スツール 野外卓 サイン施設工	設置高さ 基礎高 基礎幅 根入長	1回/1基 [施工後] 基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応じて) [施工前] [施工後]	適宜		
9 公園編	4施設整備	- 10サービス施設整備工	7		炊事場	設置高さ 基礎高 基礎幅 根入長	1回/1基 [施工後] 基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前] [施工後]	適宜		
9 公園編	4施設整備	11 管 理	6	1 2 3 4 5 6 7	フェンス 柵 手すり *転落 (横断) 防止柵 *ガードレール *ガードケーブル *ガードパイプ	基礎高 基礎幅 根入長 高さ 延長	100m又は1施工箇所 に1回 [施工前] [施工後] 100m又は1施工箇所 に1回 [施工後]	適宜 代表箇所 各 1 枚		
9 公園編	4施設整備	11 管理施	7	1 2 3	車止め *車止めポスト *車椅子ゲート	基礎高 基礎幅 根入長	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) [施工前] [施工後]	適宜		

編	章	節	条	枝	T	種	写	真管理項目		摘	要
孙田	中	I]	*	番	4	任里	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	1向	女
9 公園編	4施設整備	12建築施設組立設置工	3	1	四阿基礎		基礎高基礎幅根入長	基礎タイプ毎5箇所に 1回(施工前は必要に応 じて) 〔施工前〕 〔施工後〕	適宜		

品質管理写真撮影箇所一覧表

番号	工	写 夏	真 管 理 項 目		摘要
留万		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	16年安
1	セメント・コンクリー	塩化物総量規制	コンクリートの種類毎		
	ト(転圧コンクリー	スランプ試験	に1回	不要	
	ト・コンクリートダ ム・覆工コンクリー ト・吹付けコンクリー トを除く) (施工)	コンクリートの圧縮強度試験	〔試験実施中〕		圧試用ント体該供あがき縮験しクのが現試る確る強にたリ供、場体こ認も度使コー試当のでとでの
		空気量測定	品質に変化が見られた 場合 〔試験実施中〕		
		コンクリートの曲げ強度試験	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕		コンクリ ート舗装 の場合に 適用
		コアによる強度試験	品質に異常が認められ		
		コンクリートの洗い分析試験	た場合 〔試験実施中〕		
	セメント・コンクリー	ひび割れ調査	対象構造物毎に1回		
	ト (転圧コンクリー ト・コンクリートダ	テストハンマーによる強度推 定調査	〔調査実施中〕		
	ム・覆エコンクリート・吹付けコンクリートを除く) (施工後)	コアによる強度試験	テストハンマー試験により必要が認められた時 [試験実施中]		
2	ガス圧接	外観検査	検査毎に1回		
		超音波探傷検査	〔検査実施中〕	不要	
3	既製杭工	外観検査	検査毎に1回 〔検査実施中〕	不要	
		浸透探傷試験	検査毎に1回		
		放射線透過試験 超音波探傷試験	〔検査実施中〕		
		水セメント比			
		セメントミルクの圧縮強度試			
		験			

番号	工	写真	[管 理 項 目		摘要
留万		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	1個 安
4	下層路盤工	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		プルーフローリング	路盤毎に1回 〔試験実施中〕		
		平板載荷試験	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕		
		情材のふるい分け試験 土の液性限界・塑性限 界試験	品質に異常が認められ た場合 〔試験実施中〕		
		含水比試験			
5	上層路盤工	現場密度の測定 粒度 平板載荷試験	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		土の液性限界・塑性限 界試験	観察により異常が認められた場合		
		含水比試験	〔試験実施中〕		
6	アスファルト 安定処理路盤工	アスファルト舗装に準 拠		不要	
7	セメント安定処理路	粒度	各種路盤毎に1回		
	盤(左て)	現場密度の測定	〔試験実施中〕	不要	
	(施工)	含水比試験	観察により異常が認め られた場合 〔試験実施中〕		
		セメント量試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕		
8	アスファルト舗装	粒度	合材の種類毎に1回[試		
	(プラント)	アスファルト量抽出粒度分析 試験	験実施中〕 	不要	
		温度測定			
		水浸ホイールトラッキンク゛試験 ホイールトラッキンク゛試験 ラヘ゛リンク゛試験			
	アスファルト舗装	現場密度の測定	合材の種類毎に1回〔試		
	(舗装現場)	温度測定	験実施中〕	不要	
		外観検査 すべり抵抗試験			
9	転圧コンクリート(施	9~9 払抗武験 コンシステンシー VC 試験	コンクリートの種類毎に1回		
	工)	マーシャル突き固め試験	〔試験実施中〕	不要	
		ランマー突き固め試験			
		コンクリートの曲げ強度試験			
		温度測定(コンクリート)	コンクリートの種類毎 に1回		
			〔温度測定中〕		

	- 45	写真	管 理 項 目		lete and
番号	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
9	転圧コンクリート(施	現場密度の測定	コンクリートの種		
	工)	コアによる密度測定	類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
10	グースAs舗装	貫入試験 40℃	合材の種類毎に1		
	(プラント)	リュエル流動性試験	[計略中共中]	不要	
		240℃ ホイールトラッキング	〔試験実施中〕		
		試験			
		曲げ試験	合材の種類毎に1		
		粒度			
		アスファルト量抽出粒 度分析試験	〔試験実施中〕		
		温度測定			
	グースAs舗装 (舗装現場)	温度測定			
11	路床安定処理工	現場密度の測定	路床毎に1回		※「TS・ GNSS を用
		プルーフローリング	〔試験実施中〕	不要	いた盛土の
		平板載荷試験			締め固め情 報化施工管
		現場CBR試験	降雨後又は含水比		理要領」に
		Λπ.4.= 11.1. Δ.	の変化が認められ		よる場合は除く
		含水比試験	た場合		
			〔試験実施中〕		
			プルーフローリング の不良箇所について		
		たわみ量	実施		
			〔試験実施中〕		5
12	表層安定処理工		降雨後又は含水比 の変化が認められ	不要	※「TS・ GNSS を用
		含水比試験	の変化が認められ た場合	1、女	いた盛土の 締め固め情
			〔試験実施中〕		報化施工管
		 現場密度の測定	材質毎に1回		理要領」に よる場合は
		50% 田	〔試験実施中〕		除く
		プルーフローリング	工種毎に1回 〔試験実施中〕		
		平板載荷試験	材質毎に1回		
		現場CBR試験	〔試験実施中〕		
			プルーフローリング の不良箇所について		
		たわみ量	実施		
13			〔試験実施中〕		
1.0	ᆝᆸᄽᆸᅶ	土の一軸圧縮試験	材質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
			ては、400人ンへが同一コ		

番号	 工 種	写真	管 理 項 目		摘要
笛勺	上 作	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	1 1 万 安
14	アンカー工	モルタルの圧縮強度試験	適宜	不要	
		多サイクル確認試験	〔試験実施中〕		
		1サイクル確認試験			_
15	補強土壁工	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	※「TS・ GNSSを用 いた盛土の 締めは を は を は は は は は は は は は は は は は は は は
16	吹付工 (施工)	塩化物総量規制	配合毎に1回		
		コンクリートの圧縮強 度試験	〔試験実施中〕	不要	
		スランプ試験	品質に変化がみられ た場合		モルタル を除く
		空気量測定	〔試験実施中〕		
		コアによる強度試験	品質に異常が認めら れた場合 [試験実施中]		
17	現場吹付法枠工	コンクリートの圧縮強	配合毎に1回		
		度試験	〔試験実施中〕	不要	
		塩化物総量規制			
		コアによる強度試験	品質に異常が認めら れた場合 〔試験実施中〕		
		スランプ試験	品質に変化がみられ た場合		モルタル を除く
		空気量測定	〔試験実施中〕		
		ロックボルトの引抜き 試験	試験毎に1回 〔試験実施中〕		
18	堤防工	現場密度の測定	土質毎に1回		
		含水比試験	〔試験実施中〕	各1枚	
19	水路工(管水路)	現場密度の測定	土質毎に1回		
19	小町工(目小崎)		工賃毎に1回 〔試験実施中〕	各1枚	
		含水比試験			
20	治山土工	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	各1枚	※「TS・ GNSS を用 いた感性の 締めれた がある があれた がある がある がある がある がある は でして は は は は は は は は は は は は は は は は は は は
21	道路土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	※「TS・ GNSS を用 いた盛土の
		プルーフローリング	工種毎に1回 〔試験実施中〕		締め固め情 報化施工管
		平板載荷試験	土質毎に1回		理要領」による場合は
		現場CBR試験	〔試験実施中〕		除く

		写 真	管理項目		H —
番号	工 種	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	摘要
21	道路土工 (施工)	含水比試験	土質毎に1回		
			[試験実施中]	不要	※「TS・ GNSS を用
		 コーン指数の測定	トラフィカビリティが悪い 場合		いた盛土の
		1113/1/2	〔試験実施中〕		締め固め情 報化施工管
).]	プルーフローリングの不良		理要領」に よる場合は
		たわみ量	箇所について実施 〔試験実施中〕		除く
22	路上再生路盤工(材	修正CBR試験	材料毎に1回		
	料)	土の粒度試験	〔試験実施中〕	不要	
		土の含水比試験			
		土の液性限界・塑性限			
	四月五4四四十 /廿	界試験	++\\(\(\beta\)\(\beta\)\(\beta\)		
	路上再生路盤工(施工)	現場密度の測定 土の一軸圧縮試験	材料毎に1回 〔試験実施中〕		
	上)		[的次天心下]		
		CAE の一軸圧縮試験			
		含水比試験	- -		
23	工場製作工	外観検査	1橋に1回又は1 工事に1回	不要	
		クト観視道	工事に1回 〔現物照合時〕	1.女	
			当初の物件で1枚		
		在庫品切出	〔切出時〕		
			※他は焼き増し		
			1橋に1回又は1		
		機械試験	工事に1回		
24	ガス切断工	表面粗さ	[試験実施中] 試験毎に1回		
24		ノッチ深さ	[試験実施中]	不要	
		スラグ			
		上縁の溶け			
		平面度			
		ベベル精度			
		真直度			
25	溶接工	引張試験	試験毎に1回		
		型曲げ試験	〔試験実施中〕	不要	
		衝撃試験			
		マクロ試験 非破壊試験			
		データの 実合せ継手の内部欠陥			
		に対する検査			
		外観検査			
		曲げ試験			
			外観検査が不合格		
		ハンマー打撃試験	となったスタッド		
		11 11 100	ジベルについて		
			〔試験実施中〕		

番号	工	写 真	管 理 項 目		摘要
留り		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	1 女
26	鉄筋挿入工	鉄筋(ロックボルト)	現場搬入時に全数	不要	
	(ロックボルト工)	の長さ・径			
		グラウト材のフロー試	適宜		
		験			
		グラウト材の圧縮強度			
		試験			
		緊張力確認試験			
27	中層混合処理	テーブルフロー試験	適宜	不要	
			〔試験実施中〕		
		土の一軸圧縮試験	材料毎に 1 回		
			〔試験実施中〕		